



關西大學
創立80周年
記念式典



昭和40年
11月4日

立80周年記念



学歌合唱

万歳三唱

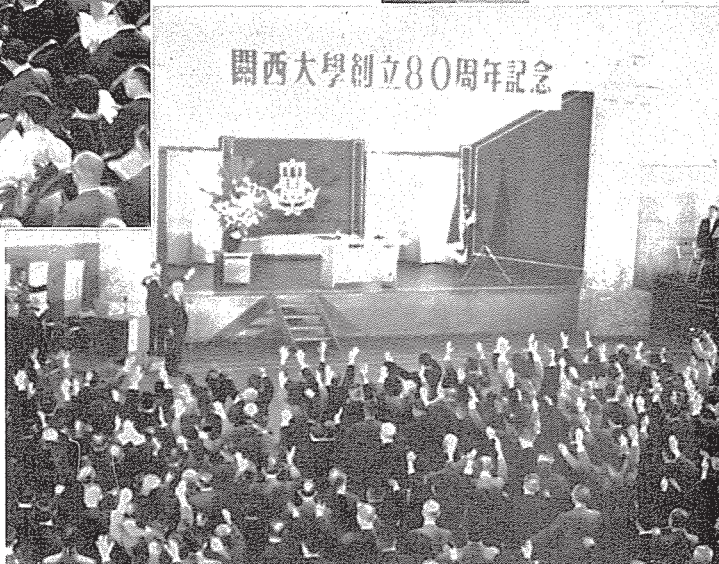


森川学長挨拶

私大連会長祝辞



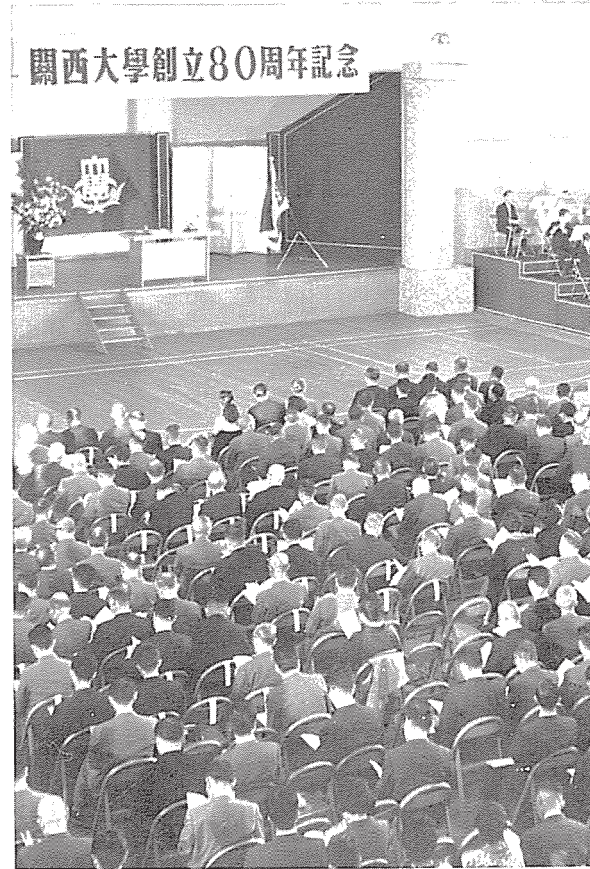
關西大學創立80周年記念



關西大學創



久井理事長式辞



学長と握手するワシントン大学代表

本学創立八十周年を迎えるにあたり、本日ここに内外各界の貴賓の御臨席を辱ういたしまして、その記念式典を挙行し得ますことは、本学関係者一同の光榮とするところであります。

本学の前身たる関西法律学校が、大阪市西区の願宗寺において、校主吉田一十先生の講義をもって開校されましたのが、今を去ること八十年前の明治十九年十一月四日のことであります。その後時代の進運と共に著しい発展を遂げ、大学を中核として、高等学校、中学校、幼稚園を擁する綜合学園となつた今日、往時を顧みて、隔世の感深く、うたた感慨無量なものがあ



式

ります。

かくの如き発展は天の時、地の利、人の和を得たと申しますか、創立者達の建学精神、並びにこれを傳承し、愛智の精神に徹する先輩諸賢、職員、学生及び九万余校友の母校愛、全国の国公私立諸大学並びに社会各層より絶えず寄せられた善意の賜物でありまして、ここに法人の名において、万腔の敬意と謝意を表する次第であります。

さて本式典に臨み、想いを八十年前の往時に馳せ、創立者達の高邁なる建学精神を付度いたしますことは

更に将来の発展に培う所以であると信じます。惟うに当時司法要職にあった創立者達は、明治維新後、西欧思想の輸入と共に、澎湃として興つた近代法治国家建設の氣運を達観し、司法権の独立と人權の確立とを通じて、日本社会の近代化のため、青少年教育の急務を痛感、然もそれは単なる法律教育ではなく、広い視野と使徒的な情熱とによって裏付けられた法曹家の教育を目的として、学校を創立すべく協議したのであります。この法曹家教育ということは、法学的知識を中核とした文化科学、社会科学の両分野をも包摂する、高

辞

久 井 忠 雄

い社会的知性の養成であつたかとおもつてあります。このことは明治十九年十月十三日の朝日新聞に「汎く内外の法律及び経済学を教授する一大専修学校を開き」とあることから推察されるのであります。然し、勿論社会的知性と申しまして、ただ漠然と雑多な学識を修得するのではなく、その集約的中心を法学的思考に置くということかとおもいます。これは宛も今日の新制大学において、大学教育の理念とされて

いるものと、全く軌を一にするものであります。次に、創立者達が十数名相寄つて、本学草創の議を

諮られたという建学の事実に想いをいたしますと、この合議体による運営方式こそは「協議による調整」として、偶々今日の大学管理における最も重要な基本的原理たる「多様の統一」方式に通じるものかとおもわれるのであります。この思想類型は、とりもおさず、デモクラシーの考え方でありまして、遠くギリシアの昔、学問發生の源流となつたもので、権力は勿論のこと、權威ですらも外部から求めず、自らの内から、自らの責任において創造するという体制であります。今日の所謂「学問の自由」とか、また「大学の自治」とかを成立させる基盤であります。

かく想い回らすとき、本学創立者達の高邁なる識見と深奥なる教育精神とに対して、今更ながら嘗々驚歎畏敬の念を禁じ得ないのであります。

かくの如く、創立者達が将来あるべき大学のために置かれた礎石は、明治、大正、昭和と傳承され、時流のあらゆる苦難をしのいで、益々磐石の重きを加えて八十年、ここに伝統をかがげ、その大きな背景と大きな力を担つて、尚今後何をなすべきかに思いをいたすべき重大な時点が今日であります。未来永劫の本学への嚴肅なる接点が今日であります。然もそれは激動する現今に処してであります。

過去をして意義あらしめるものは現在であり、現在をして意義あらしめるものは未来であります。即ち、大学関係者が互に手を執り、相携え、献身的努力を傾注して、克く承前起後の任を果たしたいと念願してやまない所以であります。

本日茲に、関西大学創立八十周年記念式典を挙行するにあたり、些か所懐を述べて式辞といたします。

(学校法人関西大学理事長)

関西大学創立八十周年を迎え、あまた貴賓のご臨席を得ておりますこの記念式典において、学長としてご挨拶申し上げることが出来ますのは、私の無上の光栄とするところであります。

八十年の年月は、大学の歴史としては、決して永いものではありません。西洋諸国には数百年の伝統を誇る大学が少なからず存在するのでありますが、わが国においては八十年を超える歴史をもつ大学は極めて少ないのであります。すなわち、本学はわが国における最も歴史の古い大学の一つでありまして、明治十九年に「関西法律学校」として出発し、その後関係者の努力と時勢の進展によって今日の大をなすに至ったので



挨拶

あります。しかも、この八十年はわが国の社会全体にとつても歴史的な事変が相継ぎ、いわば激動の時代であったといひ得るのでありますが、わが関西大学はその時代の荒波を凌いで逞ましく成長して来たのであります。

本学草創の由来は、すでに式辞の中で述べられた通りであります。八十年の歴史を振り返って、そこにそれぞれ一つの時期を画する二つの大きな節があったように思われます。一つは大正十一年いわゆる大学令による大学に昇格して、大学がこの千里山の土地に移されたことであります。当時の敷地や学舎は固より小規模のものでありましたが、それが今日秀麗な大キャンパスの源を招いたものであることは疑うべくもありません。

ません。私はこの英断を下した大学当局者として、山岡順太郎、柿崎欽吾両先生の名を忘れることができないのであります。

今一つの転機は、申すまでもなく第二次大戦の終結と、それに引き続く学制改革、とりわけ新制大学の発足であります。わが関西大学も戦争末期、文科系大学として一時廢滅に瀕しましたが、戦後の復興に際して率先して新制大学に転換し、更に大学院を開設して、爾來隆々たる発展を遂げて来たのであります。しかしそのことは余りにも新しい事実に属しますので、これ以上言を用いる必要はないのであります。

本学は現在、法学、文学、経済学、商学、工学の五

挨拶

森川太郎

学部と、それぞれの学部に対応する五つの研究科から成る大学院をもち、外に附置研究所三、併設の高等学校、中学校、幼稚園を包擁する一大綜合学園となっております。キャンパスはこの千里山の外に、二部学生のための天六学舎が大阪市内にあり、学生生徒の総数二万を超え、専任の教職員七百名に近く、現存の卒業生数は九万余に達しているであります。しかし、八十周年記念式典の意義は、単に過去の事歴を回想し、今日の盛栄を誇るだけにとどまるべきでないのは固よりであります。それと同時に、本学の使命を更めて深く自覚し、将来に向つての建設的勇猛心を一層高める機会であるべきであります。

由来大学が社会に対して負う責務は、一方学問研究

の場としては研究業績を挙げて、社会の要望する新知識を供給することであり、他方教育の場としては、多数の子弟を教育して専門的知識と高い教養を備えた有為の人材を社会に送り出すことでありましょう。本学が七年前、従来の文科系諸学部の外に工学部を新設し綜合大学の実を備えるに至ったのも、一つは技術革新時代の社会の要望にこたえるために外ならなかったのであります。教育の面については、本学の学風について一言触れることをお許し願いたいと思います。

本学創立の精神は、しばしば「正義を権力から守れ」という児島惟謙先生に因む言葉によって表徴されるのであります。この建学の精神は長い歴史を通して醇化せられ、「権力に屈せぬ自由の学風」と「自らを待む独立自治の精神」となつて、脈々として今日に受け継がれているのであります。本学に学ぶ学生諸君が専門的知識と高い教養を身につけるよう教育されることは勿論であります。その上になおこのような学風に同化されて、どこか一本背骨の通った人物に養成されることを、私共は何よりも期待しているのであります。そしてまた、このような背骨の通った人物こそが、やがてわが国民のバックボーンになるに違ひないことを、私は固く信ずるものであります。

本学が八十年の歴史を経て今日の大をなすに至りましたのは、理事者、教職員の並々ならぬ努力、校友諸氏の母校愛、教育後援会の方々のご援助によることは勿論であります。同時に社会各方面のご支援によるところもまた多大であることを私共は常に銘記しているのであります。この社会の恩恵に酬むには、先に申し上げたような学風と精神において大学の責務を果すにあることを自覚し、私共関係者は、今日の記念日に当って、そのために今後一段と力をいたす決意を新らたにしている次第であります。

以上を以つて、ご挨拶といたします。

(関西大学長)

大学基準協会祝辞

関西大学は明治十九年関西法律学校として創始されたと聞き及んでおります。爾來八十年、學問、研究の面におけるはもとより、法曹界をはじめ社會各分野に指導の人材を數多くおくり、我國の文化の發展につくされた功績はまことに大きいといわねばなりません。

しかも関西大学をはじめとして我國の私學が官尊民卑の時代に發した困難な事情をかえりみ、今日の私學隆盛をみると、私は深い感慨にうたれざるをえないのであります。私はこの機会に私學はあらためてその建學の精神をかえりみて、私學のあり方について考へる必要があるものと考へるものであります。同時に関西大學がこの創立八十周年記念日をこの出發点として、輝かしい伝統をますます發揮せんことを他の諸氏とともに祈念する次第であります。

永沢 邦男

創立八十周年記念式典



貴學創立者はフランスの碩学ボアソナード先生の直弟子で、貴学の創立にも先生の教訓が影響するところが多かったように承っております。先生は「諸君が司法官や弁護士になるのもよいが、封建制の遺風から庶民の権利をまもるためには、国民に法律を教えることが国家に報ずべき最も重要な天職である」と常に彼等を訓されたのであります。この教訓が貴學創立の原動力となり、また建学の精神ともなったものと思われまふ。

明治十九年といえはわが国の官学特に法律關係の學校は官吏養成を主眼としていた時代でありましたが、そのような時代に貴学がいちはやく直接國民の育成に着眼し、近代國家の建設に志ざしたことはまことに慧眼といわねばなりません。貴学はこの精神に生かされ理想を求め、しかも現実を忘れず真摯にして着実な學風を培いつつ今日の一大綜合學園を建設されるに至ったのでありますが、最近の二十年間われわれが直接見聞する限りにおいても、貴学の學園建設に対する熱意には刮目すべきものがあります。「関大ルネッサンス」や「関大アカデミア」などの提唱も新生日本における貴学の歩むべき道を示したものでありましよう。

この協会は大学の理念に基づき大学の質的向上を自主的に行なうことを目的とした公的機関であります。すなわち、その方法は大学の在るべき姿を基準とし、この基準と照して相互に資格審査を行なうことによって、質的に大学を向上せしめようとするのであります。

しかるに貴大学は、最初からこの協会に所属し、しかも有力メンバーとしてこの協会に役員をおくり協力しております。この一事を以ってしても貴学の真価が察知できるのであります。

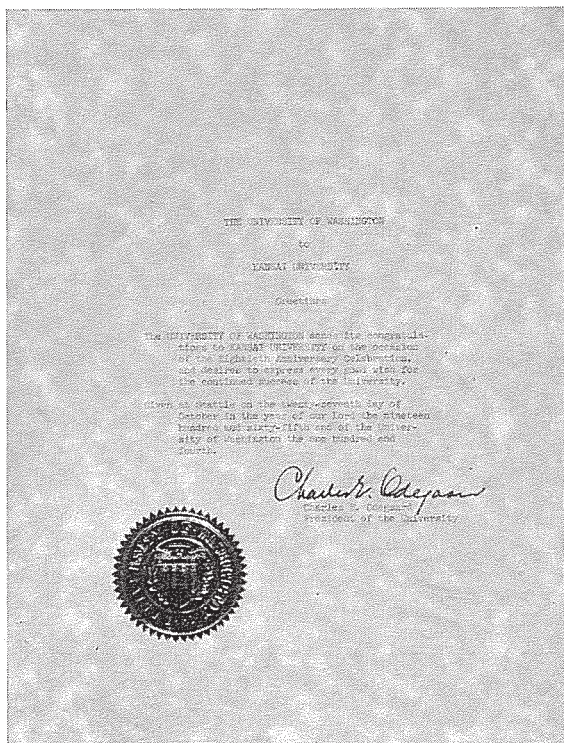
薄暗き寺院の一隅に講義を始めて以来、既に八十星霜の間には波瀾起伏もあつたでしょうが、今や外観内容共に充実した堂々たる一大綜合学園を目のあたりにして、貴学関係者のおよろこびにはまことに大きなものがありますよう。

われわれも亦大学人として心からこれを喜び、貴学の今日をあらしめた歴代の貴学関係者に敬意を表すると共に、この記念式典を契機として貴学が今後ますます興隆発展されんことを衷心から希って、お祝の辞をいたします。

大学基準協会長

大泉

孝



THE UNIVERSITY OF WASHINGTON

to

KANSAI UNIVERSITY

Greetings

The UNIVERSITY OF WASHINGTON sends its congratulations to KANSAI UNIVERSITY on the occasion of the Eightieth Anniversary Celebration, and desires to express every good wish for the continued success of the University.

Given at Seattle on the twenty-seventh day of October in the year of our Lord nineteen hundred and sixty-fifth and of the University of Washington the one hundred and fourth.

Charles E. Odegaard
President of the University



リチャード・N・マックイノン博士
(Dr. Richard N. McKinnon)

ワシントン大学極東・スラヴ語員外教授兼アジア美術センター副所長、なお、氏は日本語堪能にして、日本古典文学の研究者でもある。

を
讀
え
る
祝
辞



祝電
(順序不同、敬称略)

文部大臣
(大学) 駒沢大学長、大正大学長、岡山大学長、青山学院大学長、宮城学院女子大学長、法政大学長、明治学院大学長、南山大学長、共立女子大学長、帝国女子大学長、小樽商科大学長、弘前大学長、久留米大学長、福島大学長、桃山学院大学長、国学院大学長、大阪音楽大学長、大阪大学長、大阪学院大学長、武庫川女子大学長、高知大学長、松山商科大学長、大阪外国語大学長、東北学院大学長、四国学院大学長、東京学芸大学長、神戸海星女子学院大学長、相愛女子大学長、関東学院大学長、北海道大学長、宇都宮大学長、名古屋学院大学長、明治学院大学長、日本女子大学長、立教大学長、東京慈恵会医科大学長
(その他) 兵庫県知事、大阪府議会議員、岡山市長、私学振興会、毎日新聞社、宮崎放送、長崎新聞社、松下電器KK、鐘淵紡績KK、北条秀司氏



The President and Fellows of Harvard College
extend greetings

to

The Trustees, the President and the Faculties
of

Kansai University

on the occasion of the Eightieth Anniversary
Celebration on Thursday, the fourth of
November nineteen hundred and sixty
five, and send congratulations on this im-
portant occasion and best wishes for your
continued success in the field of education.

Given at Cambridge, Massachusetts, this twenty
second day of October, in the Year of
Our Lord the one thousand nine hundred
and sixty fifth, and of Harvard College
the three hundred and twenty ninth.

President and Fellows of Harvard
College

Attest:

William Grenville Anderson
University Marshal



The President and Fellows of Harvard College
extend greetings
to

The Trustees, the President and the Faculties
of

Kansai University

*on the occasion of the Eightieth Anniversary Celebration on
Thursday, the fourth of November nineteen hundred and sixty
five, and send congratulations on this important occasion and
best wishes for your continued success in the field of education.*

*Given at Cambridge, Massachusetts, this twenty-second day of October,
in the Year of Our Lord the one thousand nine hundred and
sixty-fifth, and of Harvard College the three hundred and
twenty-ninth.*

President and Fellows of Harvard College

Attest:

William Grenville Anderson

University Marshal

TO THE TRUSTEES, THE PRESIDENT
AND THE FACULTIES
OF
KANSAI UNIVERSITY

GREETING:

The Corporation and Faculty of the Massachusetts
Institute of Technology extend their most cordial
greetings and best wishes upon the occasion of the
Eightieth Anniversary Celebration of Kansai Uni-
versity.

*Given at Cambridge, Massachusetts, this fourth day of
November, in the year of Our Lord, the one thousand
nine hundred and sixty-fifth.*

Julius A. Stratton
President

James R. Killian, Jr.
Chairman

TO THE TRUSTEES, THE PRESIDENT
AND THE FACULTIES
OF
KANSAI UNIVERSITY

GREETING:

The Corporation and Faculty of the Mas-
sachusetts Institute of Technology extend
their most cordial greetings and best wish-
es upon the occasion of the Eightieth
Anniversary Celebration of Kansai Uni-
versity.

Given at Cambridge, Massachusetts,
this fourth day of November, in the
year of Our Lord, the one thousand
nine hundred and sixty-fifth.

Julius A. Stratton
President

James R. Killian, Jr.
Chairman

祝いのメッセージを寄せられた外国諸大学名

United States of America:

University of Alaska:

Mr. William R. Wood, President.

The University of Chicago:

Mr. George W. Beadle, President.

Columbia University:

Mr. Edward B. McMennamin, Secretary
of the University.

Harvard University:

Mr. William G. Anderson, University
Marshal.

University of Illinois:

Mr. David D. Henry, President.

The Johns Hopkins University:

Mr. Ross Jones, Secretary of the
University.

University of Kentucky:

Mr. John W. Oswald, President.

Massachusetts Institute of Technology

Mr. J. A. Stratton, President.
Mr. J. R. Killian, Chairman.

New York University:

Mr. Thomas Clark Pollock, Vice Presi-
dent and Secretary.

Municipal University of Omaha:

Mr. L. E. Traywick, President.

University of Pennsylvania:

Mr. S. H. Carroll, Secretary.

Princeton University:

Mr. Alexander Leitch, Secretary.

The University of Rochester:

Mr. W. Allen Wallis, President.
Mr. Joseph C. Wilson, Chairman,
Board of Trustees.

Stanford University:

Mr. Frederic O. Glover, Executive
Assistant to the President.

University of Washington:

Mr. Charles E. Odegaard, President.

United Kingdom of Great Britain:

University of Cambridge:

Mr. P. C. Melville, Deputy Registrar.

University of Edinburgh:

Mr. Charles H. Stewart, Secretary
to the University.

University of London:

Mr. W. H. F. Barnes, Vice-Chancellor.

University of Oxford:

Mr. K. C. Wheare, Vice-Chancellor.

France:

Université de Bordeaux:

Monsieur le Recteur Emile Delage.

Université de Caen:

Monsieur le Recteur Y. Martin.

Université de Paris:

Monsieur le Recteur Jean Roche.

Université de Strasbourg:

Monsieur le Recteur Maurice Bayen.

Italy:

Università Degli Studi di Milano:

Signore il Rettore C. Mario Cattabeni.

Università Degli Studi di Napoli:

Signore il Rettore G. Tesaro.

× × ×

Embassy of The United States of
America

Mr. Edwin O. Reischauer.

American Cultural Center:

Mr. James A. Elliot, Director.

大阪府知事祝辞



本日関西大学創立八十周年記念式典を盛大に挙行されるに当りまして、お祝いを申し上げます。

関西大学は、明治十九年十一月、時の大阪控訴院長児島惟謙先生の諒解の下に、同控訴院評定官井上操氏等の主唱に、大阪始審裁判所の判・検事数氏が協力して創立した関西法律学校に始まるものであって、これらの青年司法官は司法省法学校教授仏人ボアソナード先生の教えをうけた人々でありましたが、現職のまま夜間無報酬で向学の青年に法学を講義し、法曹家の養成を期した建学の精神は、同校の特色となり、わが国法曹界に幾多の人材を送り出されたのであります。

関西法律学校の創立以前既に大阪において法学を講ずる私塾は二、三存在したのであります。学校と称し得るものは本校が最初であります。

慶応義塾及び京都の同志社を除き、いわゆる東京五私立法律学校並びに本校が何れも明治十年代に創立されたのは注目すべき事実であります。東京と違い商都大阪という学問には不向きな地に発芽した関西法律学校が、爾来一世紀に近い長い校歴において、官尊民卑の風潮、東京偏重という極めて苛酷な障害によく耐え抜き、明治三十八年一月専門学校令による関西大学と改組改称して、大学科、予科、専門科を置き、更に大正十一年には大学令による大学となつて法学及び商業学の二部を設け、予科と大学院を併置されるに至つたのであります。

この間における歴代校長、学長以下教授の真摯なるご努力、また生徒学生諸君の熱意溢るる勉学、研究を

思いますとき、また大学昇格に当り山岡順太郎理事が大学の在り方、特に関西大学の綱領とすべき点として力説した「学理と実際の調和」については衷心から敬意を表するものでございます。

寺院等を仮校舎として市内を転々とした草創期より福島学舎、天六学舎、更に理想的な千里山学舎へと生々發展して止まず、昭和二十三年には文学部を加え、同年の学制改革による新制総合大学となつて、法、文、経、商の四学部を置き、同二十五年には修士課程の大学院と短期大学を併設、同二十八年には大学院に博士課程を加え、さらに三十三年には工学部を新設して、今や名実共に充実した世界の関西大学となつたのであります。

創立八十周年を機に、建学の目的であつた法曹家の養成は勿論、新生日本の指導者、人類福祉の先達が続々と生まれますよう、教授諸先生と学生諸君が一丸となつてのご努力により、私学の雄関西大学が真理究明の一大殿堂として、この上の限りなき發展に向われまふことを念願して、慶祝の辞といたします。

昭和四十年十一月四日

大阪府知事 左 藤 義 詮

吹田市長祝辞



菊花咲き乱れ、その香り馥郁として天地をおおう本日、学校法人関西大学の創学八十周年記念式典が挙行せられるにあたり、御招待をいた



き、その祝賀午餐会において、祝詞を申し上げることは、私の最も光榮に存するところであります。

関西大学は明治十九年十一月四日、関西法律学校の名のもとに呱呱の声を挙げて以来、関西における法学の殿堂として、子弟は全国より集り、数多くの優秀な人材を養成し世に送られた事は、ご列席の各位がよく存知されるところであります。大正十一年には、この地千里山に学舎を移し、大学令による関西大学として名実共に成長し、年を重ねるにつれ学部を増し、学生の数も万余も数え、付属校も幼稚園から高校までと立派に整えられました。

現在の関西大学は、吹田市のほぼ中央に位する総合大学として今や生々發展する日本の関西大学となりました。この成長ぶりは、やがて一九七〇年が吹田市で開かれる日本万国博覧会と共に、世界の関西大学にまで發展することでありましょう。

吹田市においては、先に千里ニュータウンの誕生をみ、続いて大阪大学の誘致をなしとげ、さらに日本万国博覧会の会場として、その開発はすみずみまでゆきわたり、人口三十万の中都市、今後は住宅都市、文化都市、いや教育都市として發展の一途をたどることでしょう。その一翼を荷負つて関西大学の社会に尽くされる役割たるや大きなものがあります。

吾々は子孫のため五十年、百年先の目標をたてながら、現在を一步一歩と建設して行かなくてはなりません。これを文化国家、教育立国の姿でなくてはなりません。

終りにあたり、関西大学の益々發展あらんことをお祈りして、お祝いの言葉といたします。

昭和四十年十一月四日

吹田市長 村 田 静 夫

大阪市長祝辞



本日はまことにおめでとうございます。久井理事長、森川学長以下の諸先生、また校友の皆さんに心からおよろこびを申し上げる次第であります。ここに参列しまして、私は十年前、当時大阪市の助役として大阪市長を代理して、七十周年のおよろこびを申し上げたことを思い起こすのであります。この時我が国が終戦によって民主的な改革が行なわれ、我が国の私学がいよいよもって発展するであろう、関西大学は将来も我が国の学術の振興と社会の進運に大きな寄与をされることになるであろうと申し上げたのを思い出すのであります。

その後十年、隆々たる発展をされまして、内容外観ともにすばらしい姿において今日の日をお迎えになったのであります。皆さん方の感激の程をお察し申し上げます。

今更申し上げるまでもなく、私学の良さは、独自の建学の精神に基づき、その独自の伝統の上に立って、独自の学風を持ち、学生は型にとられぬ個性をもちつつ、校友もそれぞれの分野において個性豊かな活動をされるところに、社会において私学が果すすばらしい役割があると思うのであります。関西大学が今まで我が国の学術の振興、社会の進運に寄与されたところはまことに大きく、就中、大学が比較的少ないといわれております大阪において、大阪の発展のために、校友諸氏の御活躍、また大学の直接の学術研究を通じて果していただいたその御功績に、私共、大阪を代表して心から敬意を表し、お礼を申し上げますのであります。どうか、八十周年を迎えられまして、これを契機として、さらにいっそう発展することをお祈りして、ご挨拶といたす次第であります。

昭和四十年十一月四日

大阪市長 中馬 馨

評議員会議長祝辞



菊薫るこの住き日に、母校関西大学創立八十周年記念式典を挙行されるにあたり、評議員会を代表して、御祝を申し述べ、御慶びを申し上げます。

とは、私の最も光栄と存するところであります。関西大学は、去る昭和三十年の創立七十周年を転機として、更に一大躍進を図るべく大学に相応しい、多くの近代的施設がなされました。殊に、創立八十周年記念事業の一環として、関西大学会館、経・商学部研究室、工学部、第五学舎の建設、校地の拡張等、その発展は誠に目覚ましいものがあります。

さて、母校が明治十九年関西法律学校として創立されてより、八十周年の歳月を経た今日、かくも偉大な発展を遂げ得たことは、創立者諸先生の崇高なる建学精神と、それを継承した先輩諸賢の真摯な努力とが輝かしい伝統となり、それが実を結んだものと思えます。

本日、この式典にあたり、先輩諸賢の功績に対し衷心より敬意を表すると共に、八十年の永きに亘り、本学を愛し、援助を惜しまなかった校友、父兄、一般有志の各位に対し、心からなる謝意を表する次第であります。

更にまた、その経営の衝にあたられました歴代の理事者、並びにこれに協力し、あらゆる困難を克服して営々努力を重ねられた教職員各位の御労苦に対し、深甚なる敬意を表するものであります。

私共は、母校がこの式典を新たな契機として、学の内外に於ける一層の親和と協力につとめ、今後益々興隆発展することを希ってやまないものであります。本日栄あるこの式典にあたり、いささか所感の一端を述べて祝辞といたします。

昭和四十年十一月四日

評議員会議長 樫 本 信 雄

校友会会長祝辞



関西大学校友十万人を代表して私はこの機会に一言感謝の辞を申し上げたいと存じます。私共が今日あることを得ましたのは、一重に大学の御恩義であります。また大学創設者、歴代の理事者、ならびに学長、諸先生方の御指導によるもので、ここに深甚なる謝意を表するものであります。

なおまた、私共が社会のあらゆる分野に出まして、この十万の校友がそれぞれその所を得せしめていたのは、今日御来賓を賜りました御来賓の方々、全国各地の多くの方々よりの御理解のお蔭でありまして、この機会に深甚なる謝意を表しまして、ご挨拶いたします。

昭和四十年十一月四日

校友会会長 岡 野 衛 士

教育後援会長祝辞



皆さん本日はおめでとうございます。本日はすでに早くから先覚者の慰霊祭が行なわれ、先程の式典以来創立者ならびに歴代の功労者に対しまして、いろいろの讃辞がささげられました。まことに有意義な催しと存じ上げます。ただ私はとくにお願いしたいのは、この八十周年を記念して、今後一層の進歩を期待し、一層の発展をお祈りする次第であります。

教育後援会といいたしましても、先ほど立派な感謝状をいただきました、この手前も、引つづいて出来るだけの後援をと考えております。よろしくお願いいたします。

昭和四十年十一月四日

教育後援会長 藤 田 友 次 郎

関西大学讃歌

北 秀 司 作詞
清 水 脩 作曲

- (1) 千里の森 緑深く
真理の小径 霧白し
天をつく巨木 蒼穹に琴かき鳴らし
合歓の炬火 いまぞ燃え立つ
関大 関大 わが関西大学
- (2) 大淀の流れ 永劫に青春の波を清け
岸辺の牧に 白牛の群れ
自治の青草を食む 若き鷺
正義の翼もて 聖空を天飛びやまず
関大 関大 わが関西大学
- (3) ふりかえる 八十の春秋
ひたすらにケルンを信じ
あえぎ攀りし先駆の嶺
いま頂の空はろばろ 自由の旗雲
燦として 金色に耀けり
関大 関大 わが関西大学

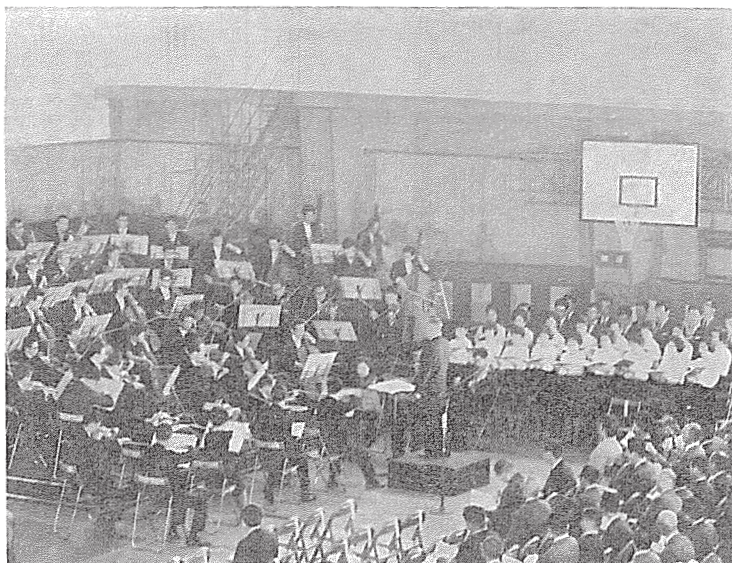
新 学 生 歌

明 珍 昇 作詞
緒 方 京 子 作曲

- (1) 燃ゆる いのちの 限りなく
白亜の窓に 競い立つ
若木の姿 さやかなり
友よ たたえよ この息吹き
真理の道を 究めゆく
われらに 清き 誇りあり
関大 関大 関大のわれら
- (2) 流れる 淀は さわやかに
葦原 遠く わたる 風
歴史の 歩み さだかなり
友よ たたえよ この伝統
正義の 光 かざしゆく
われらに 愛と 自由あり
関大 関大 関大のわれら
- (3) 夢みる 明日を 描きつつ
大空はるか 翔ける 鳥
羽ばたく 翼 力あり
友よ たたえよ この若さ
世界に 挑む 雄々しくも
われらに 高き 理想あり
関大 関大 関大のわれら



讃歌演奏



朝日放送の吉田三七雄氏を通じて、
「関西大学讃歌」の作曲を依頼され、程
を経て、北条秀司氏の詩次第に構想がま
とまり始めた。その稿が届けられた。す
でに、一年前して、一週間くらいで、一
気に書き上げた。

詩は大変スケールの大きいもので、
記念日の三週間ほど前に、スコ
アを大学に手渡

「関西大学讃歌」

作曲について

ラと合唱の曲に
作曲するには、
まことにふさわ
しいと思った。

しかし、実を言
うと、その頃、私はあまり自信が
なかった。スケールの大きさは、関
西大学創立八十年という歴史の与
える、一種の威圧感と一緒になっ
て、私をしめつけたからである。

しかし、時間が経つにつれて、か
ような感じがした。記念
日の当日、私も
うと、その頃、私はあまり自信が
なかった。スケールの大きさは、関
西大学創立八十年という歴史の与
える、一種の威圧感と一緒になっ
て、私をしめつけたからである。

（作曲家、作品は歌劇「修善寺物語」等）

新生学生歌の選定

「御空に輝く陵欄の」(学生歌)と、
「嵐劈く鳳の」(通達歌)とが本学の学
生歌として学生に愛唱され、また、
校友には若き日の懐かしい思い出に口
ずさまれて来たが、これらは共に大
正十二、三年頃に作られたものであ
って、新制大学になった今日、また
では慎重厳正に審議し、第一次選定

これらと異った時代感覚を盛った新
学生歌を、創立八十周年記念に、制
定しようと新生学生歌選定委員会が設
けられ、去る三月一日本委員会では
早速公募し、その応募資格は本学学
生・職員・校友であった。五月三十
一日の締切日に集った作品は総数五
十二編で、これらにつき選定委員会
では慎重厳正に審議し、第一次選定

新生学生歌入選者

(作詞)

一 等 明 珍 昇

昭和三十四年大学院(修士課程)
文学研究科卒

佳作二編 鐺 井 敏 夫

法(一部)一年次在学

高 田 英 明

法(二部)二年次在学

(作曲)

一 等 緒 方 京 子

文学部英文学科(一部)三年次在学

佳作二編 曾 野 和 明

法学部専任講師

高 橋 一 馬

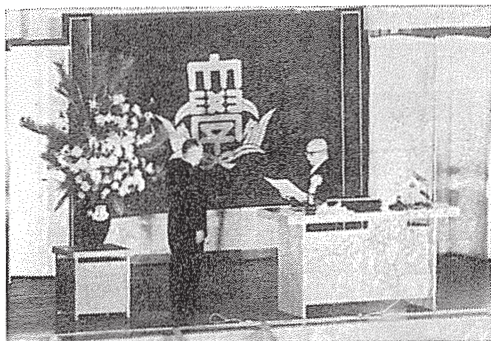
大学院(修士課程)法学研究科二年次在学

で作品十一編を得、さらに、第二次
選定で作品五編にしぼり、第三次選
定にて、内容、形式、品位、格調その
他諸種の観点から長時間を費して意
見交換を行ない、最後に投票をもつ
て、また、作曲については特に作曲
家清水脩氏に敬選を依頼し、入賞、
佳作とも作詞・作曲それぞれ各一編
づつを決定して、これを発表し、入
賞者および佳作者には表彰状および
賞金が授与された。

おこわり

讃歌作詞者北条秀司氏にも作詞の発想につ
いて御感想をいただく予定でしたが、同氏
が多忙のため、本号刊行に間にあわず、遺
憾ながら割愛させていただきましたので、
御了承下さい。

編集室



感謝状

校友の社会における生々躍動は大学の教育研究成果の挙揚と相俟って私学発展の源泉であり本学校友はよくその実を顕現し今日の大学の偉容に貢献されたのであります

貴会におかれましてはこの校友十万人の結果として母校に対し物心両面に亘り労のみ多くしてむくわれることなきご援助をいただき更には八十周年記念事業に献心的なご努力を賜りました

八十年の伝統をここに掲げこの大きな背景と大きな力を担って永遠の将来に向って何をなすべきかの重大な時点に挙行する創立八十周年式典の本日ここに深甚なる感謝の意を表します

昭和四十年十一月四日

学校法人 関西大学

関西大学校友会 殿

感謝状

昭和二十二年六月貴会が設立せられ爾來十八カ年その間教育職員の研究助成 父兄懇談会の開催 校友会部活動の援助 学生文庫の購入及び体育館 千里山食堂 秀麗寮 水泳プール 教育会館 教育会館別館の建設さらに創立八十周年記念へのなみなみならぬご熱意等物心両面に亘り労のみ多くしてむくわれることなきご協力を賜りました

而してこのことたるや終戦直後の大学運営の窮迫期を経て終始変らないことに思を効しますとき本学今日の偉容は蓋し偶然でないとの感激を禁じ得ません
茲に創立八十周年記念式典にあたり深甚なる感謝の意を表します

昭和四十年十一月四日

学校法人 関西大学

関西大学教育後援会 殿

感謝状贈呈

創立八十周年記念式典の佳き日をトして、日頃本学の隆盛のため、陰に陽に、大学のあらゆる面に亘って、常に絶大な支持と援助とを惜しまず、今日をあらしめた関西大学校友会、関西大学教育後援会、関西大

学千寿会および寄附者各位に対して、大学から、満腔の謝意をこめて、感謝状がそれぞれの代表者、すなわち、岡野校友会長、藤田教育後援会長、石井千寿会長、また、寄附者を代表して寺尾大和銀行頭取に贈

感謝状

貴会におかれましては創立以來十一カ年本学の発展のため物心両面に亘り労のみ多くしてむくわれることなきご尽力をいただきそれに創立八十周年記念事業には多大のご高配を賜りましたご子弟ご卒業後といえども終始変らず本学にお寄せいただいておりますご熱意に対し無上の感銘を禁じ得ません
茲に創立八十周年記念式典にあたり深甚なる感謝の意を表します

昭和四十年十一月四日

学校法人 関西大学

関西大学千寿会 殿

感謝状

関西大学創立八十周年を記念してさらに将来の発展を期する拡充のため御寄附を仰ぎましたところ本主旨に御賛同戴き御厚志を賜りましたことは洵に感激の至りに堪えません
茲に関西大学創立八十周年記念式典にあたり深甚なる感謝の意を表します

昭和四十年十一月四日

学校法人 関西大学

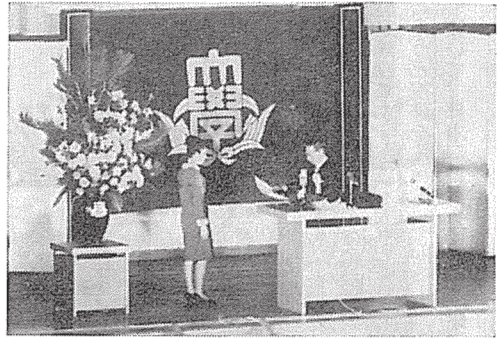
理事長 久井 忠雄

関西大学

学長 森川 太郎

(寄附者各位)

殿



感謝状

貴殿には今般本大学創立八十周年を記念して「関西大学讃歌」を作詞されました。大学の使命達成を賞で学生生活を謳い且つ輝しい大学の未来を頌する歌詞は洵に本学を讃える絶唱といふべく大学関係者をいたく感動させ永く歌い継がれることと信じます。

茲に創立八十周年記念式典にあたり感謝の意を表します。

昭和四十年十一月四日

学校法人 関西大学

理事長 久井 忠 雄

北條 秀 司 殿

られ、参列者一同に深い感銘を与えた。

また、創立八十周年を記念して新たに制定された「関西大学讃歌」の作詞者並びに作曲者にも鄭重な感謝状が贈られ、北条秀司氏欠席のため、清水修氏が受

式典に栄ある

領された。

続いて、「新学生歌」の募集に応募して、めでたく入賞した作詞者明珍丹氏と作曲者緒方京子氏とに対しても、森川学長からそれぞれ表彰状が贈られた。

(写真は祝賀式場における感謝状贈呈)

感謝状

貴殿には今般本大学創立八十周年を記念して「関西大学讃歌」作曲されました。高雅なリズムと劇的な音量のハーモニーによって構成された曲調は洵に莊重にして雄渾な響の中に大学を讃えるものといふべく大学関係者をいたく感動させ永く奏し継がれることと信じます。

茲に創立八十周年記念式典にあたり感謝の意を表します。

昭和四十年十一月四日

学校法人 関西大学

理事長 久井 忠 雄

清水 脩 殿

表彰状

貴殿は今般本大学創立八十周年を記念して「関西大学学生歌」を公募したところ作詞の部に当選されました。

清純な理想と高邁な気魄とを謳った歌詞はよく本大学の学生像を讃えて余蘊なく永く学生歌として歌い継がれることと信じます。

茲に創立八十周年記念式典にあたり記念品を贈呈して表彰します。

昭和四十年十一月四日

関西大学

学長 森川 太郎

明 珍 昇 殿

表彰状

貴殿は今般本大学創立八十周年を記念して「関西大学学生歌」を公募したところ作曲の部に当選されました。

清澄な調べに大学生の矜持を載せ潑刺なリズムに青春を奏でる曲調は永く学生歌として歌い継がれることと信じます。

茲に創立八十周年記念式典にあたり記念品を贈呈して表彰します。

昭和四十年十一月四日

関西大学

学長 森川 太郎

緒方 京子 殿

祝賀式典の感激と興奮、未ださめやらず胸中に懷きつつ、参列者一同階下の祝宴場に歩を運ぶ。

会場に当てられた体育館一階の、さしもに広い会場も立錐の余地なく、開会と同時に久井理事長挨拶を述べ、続いて、左藤大阪府知事起って「関西大学の綱領



とすべき点として力説した『学理と実際の調和』については衷心から敬意を表する」と讃えれば、中馬大阪市長、村田吹田市長ともどもわが国の学術振興、文化国家建設に本学が益々大きく寄与するであらうと祝辞を述べる。

続いて、樺本評議員会議長が先輩諸賢

の功績を頌え、藤田教育後援会長、岡野校友会長それぞれ慶祝の意を表せば、学生代表起って大学の発展を祈る。

祝辞を終って、永沢慶応義塾大学長の発声で乾杯、祝宴に移り、懐旧談の披露となるや、まず三島一高長起ち、旧校歌（註、関西大学歌制定前の校歌）を高らかに歌って、大正時代の本学を懐かしみ、続いて水谷撥一講師が大学昇格当時の学園

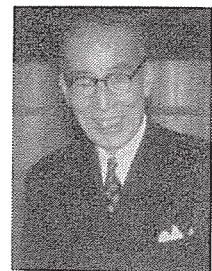
創立八十周年を祝し

将来の発展を祈る

— 祝賀午餐会で乾杯 —

に想いを馳せれば、満場齊しく躍進闊大の今昔に感銘を更たにする。

來賓、校友、職員、学生うち寛いで、互いに式典を祝し合い、あるいは恩師と膝を交え、あるいは旧友と学窓を想い浮べて歓談つきず、最後に秦同志社理事長の発声で「関西大学万歳」を三唱、午後二時すぎ盛大裡に終了した。



懐旧談

水谷 撥一

現講師、元教授（初代経済学部長）

本学が七十周年の式典を挙げましたのは、ついこの間のように思っていました。が、本日の八十周年の記念式典に参列いたしました。この間に十年の期間が経過したのを回顧し、今更ながら、月日のたつのに速いのに驚ろき、光陰矢の如しとか、歲月流るるが如しとかいう言葉をしみじみと感ずる次第であります。しかし、この十年は本学にとりましては、実に意義のある期間であり、正に画期的のものであったといえましょう。

本学はこの間にその内容、外容ともに大きな充実を見、将来の発展を約束する基礎がこの間に築かれたと信ずるのであります。

申すまでもなく、大学の生命は永遠であります。国の政体が変わろうと、社会組織が変化しよう、一言にしていえば、世の中がどんなに変わろうと、依然として存在するのが大学であります。皆様ご承知の如く欧米諸国においては実に古い歴史を誇る大学が数多くありますが、それ等の大学は今後も永久にその存在を続けることであります。

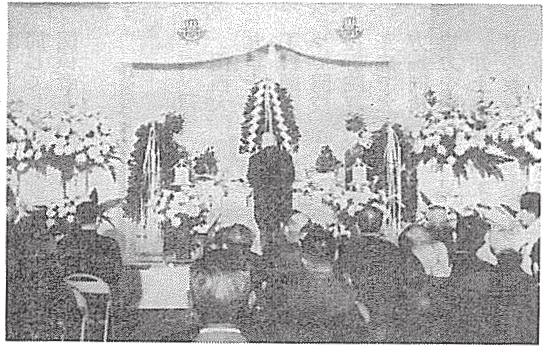
わが関西大学も日本民族の存する限

り存続するでしょう。これは大学としての運命であります。が、まことに、有難い、悦ばしい運命であります。しかしこの運命の遂行は意義のあるものでなければなりません。この運命の立派な開拓こそは将来に期せねばならぬ使命であります。そして、大学の生命が永遠である以上、この使命の達成も長期にわたるの当然であります。

この十年間に、營々築かれた基礎はどこまでもこの使命達成のためのものであり、われわれは基礎そのものの確立に酔ってはいけません。基礎はどこまでも基礎であり、われわれは、これから、この基礎の上に立つて大いに努力と精進を積み重ねて行かねばなりません。が、今後何百年、何千年の後、本学の歴史をひもどく人々は、おそらく、この偉大なる大学の基本的な基礎が、実に、昭和三十年代に築かれたのだと悟るでしょう。この基礎も本学が立派に発育して、はじめて、その意義をなすものであり、また、その価値を現わすものと思うのであります。

大体において、外容（私は「外観」でなく敢えて「外容」と申しますが、これは単に建設された建物等の外観をいうのでなく、その有する諸設備、施

（27頁下段に続く）



物故學員慰靈祭

物故學員名簿

創立関係者 井上操、大島貞雄、児島惟謙、志方鍛、鶴見守義、手塚太郎、土居通夫、堀田正忠、野村鈺吉
 校長 小倉久、水上長次郎、有田徳一、一瀬勇三郎
 校主 吉田一士
 学長 岩崎卯一、織田萬、加太邦憲、河村善益、神戸正雄、古莊一雄、齊藤十一郎、仁保亀松、松本蒸治、山岡順太郎
 理事長・協議員 松本静史
 理事長・評議員 白川朋吉
 専務理事・協議員 喜多村桂一郎、玉木三郎、垂水善太郎
 理事・協議員 岡村司、柿崎欽吾、黒田

創立八十周年記念式典に先立ち、創立以来今日まで、その在世の時代に応じて本学のため尽力された先輩物故學員に対して、今日の発展を報告し、もってその霊を慰める慰靈祭は、午前九時より体育館一階第二体育室において挙行された。式は天満宮神官(五名)の祭事に続き、

関西大学役職員物故者慰靈祭詞

朝日乃只刺志夕日乃日影長留千里山乃可美
 處乎撰定米氏建宮設介志関西大学体育館
 乃広間乎今日乃祭時登齋比定米氏靈座設介
 招支奉里坐世奉留
 言卷母忌々志倭関西大学役職員物故者 井
 上操靈乎始米百八十二柱乃靈達乃御前雨
 満宮福宜星見吳謹志美敬比底白左
 此乃學里乃庭波志母明治十九年十一月四日
 止云布日雨浪速乃都爾始米氏関西法律学校止
 志氏教乃延延散展介志与里明治三十八年雨波
 私立関西大学 大正十一年雨波大学令雨因
 留大学 次昭昭和二十三年雨波新制大学止
 志氏組美改米 次々爾学部大学院乎設介高校
 中学校幼稚園乎母併世役備留綜合学園
 止志氏弥榮延爾榮延津々永夜年月廻里米氏今

莊次郎、砂川雄峻、遠部逸太郎、八島治一、増山忠次、吉田音松

監事・協議員 稲垣虎二郎、大鐘彦市、竹田省、武内作平、山口房五郎

監事・評議員 長柄金吾

協議員 板垣不二男、板野友造、入江眞太郎、上村豊、烏賀陽然良、勝田永吉、川勝武夫、川崎齊一郎、北浦圭一郎、木村清、小林芳郎、後藤武夫、齊藤常三郎、沢川千之助、沢川忠二郎、菅沼豊次郎、須々木庄平、武田貞之助、武内省三、永田良雄、萩原敏隆、平田諤衛、広瀬徳藏、松沢卓規、松村敬夫、南亮爾、宮本英倫、村松岩吉、森内梅

て、式典委員長久井理事長は恭々しく霊前にすすんで祭文(下記)を奉読した後、委員長および委員が順次玉串を捧げ、次いで山岡康氏が遺族を代表して玉串奉奠を行ない、縁故ある人々の在りし日の業績と面影をを偲んで式を終了した。

日波志母八十周年乃佳支日止波志母成里叙

故種々乃祝支事多支賀中爾遠久思比深久慮里
 斯久母立榮延行久事波專良汝靈達賀現世
 爾居坐世志時爾此乃学園乃為米靈志給比勞
 伎給比志高支尊支見頼爾依留毛乃曾止 理事長
 久井忠雄乎始米関係留人々相謀里氏先津波
 靈祭仕奉留止志氏御前雨海河山野乃種々乃
 味物捧介麻津里氏深久厚久謝里言申志遺族
 山岡康乎始米諸人達参拝美奉留状乎平介
 久安介久聞召志給比氏今母以往母此乃學里乃
 園爾育知行久教草波彌茂里爾茂里浪速津南
 咲介也此乃花香具波志久彌々立榮延書乃林爾
 分介入里道乃蘊美乎極米志久給比進美行
 久大御代爾関西大学乃佳支名乎愈々掲介左
 志女給比世乃為 園乃為盡志奉留敏久爾府奈賀
 良撫泥給比惠美給閉止謹志美敬比底白寸

吉、安川彦夫、山田正三、吉崎亀之助、横山弘太郎

評議員 安宅弥吉、池尾芳藏、飯國莊三郎、太田光熙、岡田清作、神宅賀壽恵、喜多又藏、北島治房、木原繁実、佐多愛彦、佐竹三郎、住友吉左衛門、関一、高木利太、武田宣英、田所美治、内藤正剛、橋本重幸、藤田平太郎、藤田伝三郎、堀啓次郎、前川太良右門、松本重太郎、村尾静明、村山竜平、本山彦一、山室宗文

顧問 桑田熊蔵、下条小野右衛門、宮島綱男
 教授 安藤光、魚澄惣五郎、内多精一、

祭文

慎しきまして一八二柱の御霊に申し上げます
 明治十九年に創立されました本学は、歳を問みしますこと八十九年、創立者の中核となられました児島惟謙先生をはじめとしての御霊に対し、本学の今日のこの姿といふものは、ひとえに皆さま方の御功勞の賜物でありますので、ここに慰靈祭を執行し、慎しみて感謝の念を捧げますと共に今後この八十年の伝統を背負い、この大きな力と大きな背景のもとに、未来永劫に続きます大学の将来に對して、何をなすべきかを決定します重大な時点にあたり、覚悟を新たにし、遺恩に報いることをお誓いいたします

昭和四十年十一月四日

学校法人 関西大学
 理事長 久井忠雄

太田道、賀来俊一、風巻景次郎、風屋俊雄、小柳哲司、佐々穆、佐々木富五郎、新町徳之、徳尾俊彦、中島繁亀、中村鄧次郎、中村良之助、花戸龍藏、平井淳一郎、藤沢章次郎、本莊鉄次郎、村上喜貞、三上達三、向軍治、森下政一、安川安太郎、山田松太郎、吉木一朗、東清一、安達金城、秋山卓爾、石川登、飯田清藏、馬渡権兵衛、小川忠藏、勝島芳松、神田栄吉、菊池金次郎、小泉幸治、後閑宣太郎、島田菊次郎、下島光、関根稔、土橋四三、中村唯一郎、引野秀春、古川武、宮崎繁太郎、室石常秀、村方敏三、山中一明、四辻詮講師 細江逸記、和仁貞吉
 事務職員 天野美津子、天野平一、石田フジエ、可野敏四郎、鎌田長次郎、木戸卯之助、木下孫一、小松時子、城内瞭、霜村盛郷、田川七郎、武田武美、田所留三、竹腰吉治、辰己常世、田村桂一、中村富夫、野口末吉、長谷川重平、平井進、野村吉藏、松崎義盛、松山藤雄、山口沢子、吉田亀太郎

建学の偉業を顕彰し

本学が、関西法律学校に発し、今日の偉容をみるに至ったその源を温ね、創立者十二名の遺徳を偲び、その偉業を後世不滅に彰わすため、創立八十周年記念を卜して、そのレリーフを製作することになり、記念式典までに完成した。また、この際戦時中抜魂撤去されていた「山岡順太郎先生胸像」を復元完成し、さらに校友谷口隆佳氏の寄贈された「児島惟謙先生胸像」を加え、去る十一月二日午前十一時二十分より大学関係者、児島鉄也、山岡康岡氏、寄附者、製作者等相寄ってそれぞれの除幕式を行ない、時を同じくして記念碑が学園内に建立され、関係者一同慶びを頒ちあった。

「創立者の像」撰文

関西大学の前身関西法律学校は明治十九年十一月四日大阪市西区京町堀上通三丁目願宗寺における吉田一士の講義をもって開校された創立の主唱者は当時大阪控訴院評定官井上操同検事小倉久同堀田正忠で大阪始審裁判所判事鶴見守義同志方銀同検事手塚太郎同野村鈺吉は創立に協力を約した

井上らはフランスの法学者ポアソナーの教に感銘を受け司法権独立と人権確

立の要を痛感し日本の国民に対し権利の觀念を鼓吹するため法律学を普及しようとする情熱的な使命感に燃えて本校を草創した小倉久は初代校長に任じ吉田一士校長となり有田徳一はこれに協力しのち校長となった大阪控訴院長児島惟謙大阪始審裁判所長大島貞敏は講師の上司としてその出講を許可し指導と援助を与え児島惟謙の親友大阪商業会議所会頭土居通夫は創立資金を援助した児島惟謙大島貞敏土居通夫は名譽校員に推戴された講師たる裁判官七名が明治十九年十二月十三日東区淡路町予章館で講義を始めることよって一段と充実に翌年四月二十四日校舎は天満河内町興正寺に移され本校の基礎は確立された

関西大学七十年史より

森川太郎書

児島惟謙先生胸像撰文

児島惟謙先生は伊予国旧宇和島藩士で天赦園と号し字を有終と称す先生は大阪控訴院長在任中明治十九年本学の創設にあたり中核となって力を効された一大恩人であるがかの未曾有の困難たる大津事件の裁判に対しては大審院長として身を以て法的正義を守り抜き司法権独立の原則を確保して国難を打開し国威を内外に宣揚して世に護法の神と敬慕された正義をあらゆる外的圧力から守り抜こうとする「正義の感覺」の育成ということこそ

は本学の建学精神に直結して夙に確立された教学方針の最も根本的な理念に他ならない今年本学創立八十周年を記念して校友谷口隆佳君の篤志に基き惟謙先生の遺徳を顕彰し茲にその胸像が建立されるに至った自今学園関係者一同朝に夕に親しく先生の温容に接し得てその威徳を偲び本学教学方針の根本理念を体得するならば本大学将来の極りなき発展は永く約束されるであろう

昭和四十年十一月四日

法学博士 関西大学教授 中谷敬寿 撰

岡野衛士書

山岡順太郎先生胸像撰文

山岡順太郎氏は慶応二年九月十八日金沢市に生れた日本電力株式会社その他多数会社社長役員を兼ね大阪商業会議所会頭に任じ関西財界の巨頭であった大正十一年五月二十日本大学総理事兼学長に就任大学令による大学への昇格及び施設拡充に尽力し特に大運動場建設に莫大な私財を寄附したまた教育理念として「学の実化」を唱えた大正十四年二十八日学長を辞したが総理事に止まり昭和三年十一月二十六日逝去した

昭和六年一月二十九日胸像完成除幕式挙行

昭和十八年七月八日金属供出の為抜魂撤去

昭和四十年十一月二日再建除幕式挙行

横田健一撰
阿部甚吉書

「創立者の像」山岡順太郎先生胸像 彫塑者 新谷秀雄氏 略歴
明治四十年七月金沢に生まる
彫刻を朝倉塾・東京美術学校に学ぶ
現在二紀会委員・武庫川女子大学教授
昭和三十七年美術研修のために渡欧
主な作品、「みどりの塔」「花の塔」

感謝状

貴殿には今般本大学創立八十周年を記念して、「創立者の像」レリーフを制作し、かつ山岡順太郎氏の胸像を復元されました。洵に象徴と実在とを融合し、量感の中に巧みに動的効果を活かした彫塑は、永く本学関係者を感動させることと信じます。

ここに創立八十周年記念式典にあたり、感謝の意を表します。

昭和四十年十一月四日

学校法人 関西大学

理事長 久井忠雄

新谷秀雄殿

「児島惟謙先生胸像」制作者

今村久兵衛氏 略歴

明治二十四年三月大阪に生まる

主な作品、「前大阪市長池上四郎氏銅像」「大阪城天守閣の金鯱」

（胸像原形は長男今村輝久氏担当

同氏は現在行動美術協会会員 彫刻部

審査員）

明日への発展を期す



「創立者の像」

素材 ブロンズ

大きさ たて一、〇〇〇ミリ

よこ三、〇七〇ミリ

設置場所 関西大学会館

玄関正面の壁面

前列左より

野村 鈺吉

手塚 太郎

小倉 久

井上 操

堀田 正忠

志方 鍛義

鶴見 守義

後列左より

有田 徳一

大島 貞敏

児島 惟謙

土居 通夫

吉田 一士



山岡順太郎先生胸像

素材 ブロンズ

高さ 700ミリ

建立場所 千里山第二学舎前庭



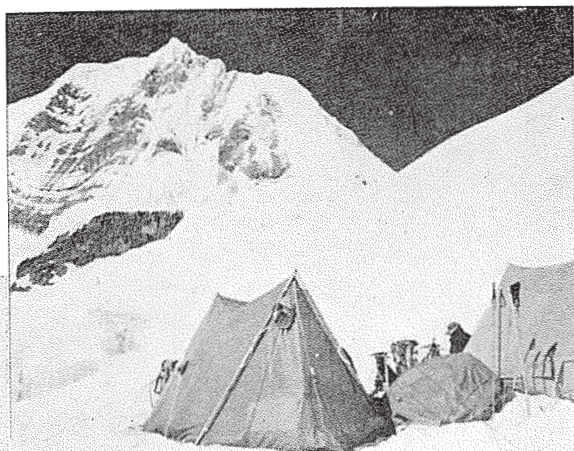
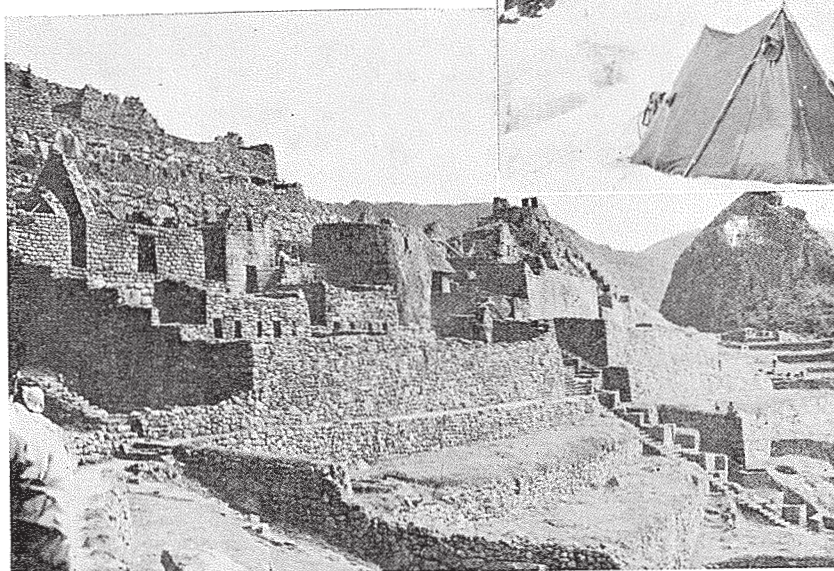
児島惟謙先生胸像

素材 ブロンズ

高さ 890ミリ

建立場所 千里山第一学舎前庭

インカ・マチュピチュ遺跡



↑ペルー・アンデス・シウラグランデ（六、三五メートル）を第一キャンプ（五、一〇メートル）から望む



創立八十周年記念事業の一環として、記念出版物を計画し、『関西大学八十年史』および各学部別の『関西大学創立八十周年記念論文集』がそれぞれ刊行されることになった。

『関西大学八十年史』は、過る昭和三十年の創立七十周年を記念して編纂刊行された詳細かつ膨大な『関西大学七十年史』を基にして、これを七十年抄史に纏め、その後、過去十年間のあゆみを詳細に記述すべく編纂される計画で、現在、文学部歴史学教授横田健一氏を主に、同じく文学部歴史学教授園田香融氏がその掌にあたり、年史編集室を設けて着々資料の蒐集整理が進められている。

なお『関西大学七十年史』刊行後、創立当時の資料として新しく発見されたもの、殊に児島惟謙氏が本学開校にあたっての祝辞たる、

祝言

国家ノ隆替ハ人民ノ賢愚ニアリ人民ニシテ法ヲ知り之ヲ守ラサルハ牛馬ニ異ラス此度同志相謀リ関西法律学校ノ設立ヲ行フニ臻リタル実ニ此ノ趣ニシテ他志ナカルヘシ茲ニ其ノ業ヲ開クニ方リ前途ノ洋々タル福寿海ニ似タルヲ祝シ以テ開設ノ挨拶トナス云爾

明治十七年秋分

設立代表 児島 惟謙

など、貴重なものが多く、七十年史の補遺をなすべく種々研究されているので、刊行は相当遅れる見込みである。

体裁は、A5判、七十年抄史約一五〇頁、十年史約三〇〇頁、図版・統計等約一五〇頁、計約六〇〇頁の予定である。

『関西大学創立八十周年記念論文集』は、現在的水準における本学の学問的業績をわが国の学界に発表するもので、『法学論集』、『経済論集』、『文学論集』、『商学論集』、および『工学研究報告』(英文)

編史八十年と

研究成果発表

— 記念出版物 —

の五種にわかれ、各学部、学会のスタッフが執筆する。体裁は、A5判またはB5判、一〇〇ないし七〇〇頁、洋製本となっている。なお、各論集の執筆者を紹介すると次の通りである。

『法学論集』

(掲載順・敬称略)

中谷敬寿、森省三、池田榮、高尾正男、間登志夫、山川雄己、植田重正、中義勝、松本暉男、伊沢孝平、菱田政宏、岸井貞男、岩田健次、川上敬逸、本浪章市

『経済論集』

三谷友吉、高木秀玄、高本昇、上田昭三、貞木展生、松原藤由、東井正美、鶴嶋雪嶺、矢口孝次郎、荒井政治、津川正幸

『文学論集』

田中英三、竹市明弘、加藤由治郎、田宮武、川口勇、寛田知義、友松芳郎、岩野次郎、金戸嘉七、臼井二尚、居安正、宇田米夫、高橋盛孝、大庭脩、吉永登、金子又兵衛、岸本一郎、広瀬捨三、三宅川正、小野勇、安川昱、角田文雄、松本政治、大西昭男、多田敏男、堀正人、秋山

肇、名取栄史、上畑芳一、栗駒正和、赤井養光、重本利一、植松健郎、小川悟、広岡英雄、小方厚彦、福本喜之助、芝田稔

『商学論集』

今西庄次郎、川元英二、柴田銀次郎、宮下孝吉、亀井利明、保田芳昭、飯野春樹、大橋昭一、植野郁太、高尾忠男、富山忠三、酒井文雄、高柳竜芳、木村滋、長砂実

『工学研究報告』

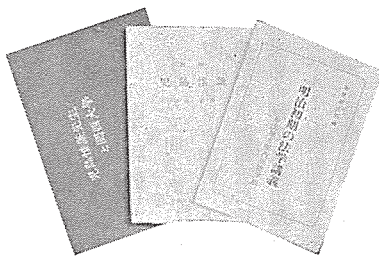
田中行雄、矢野章成、新家昇、勝田勝太郎、石原稔、山内恒美、橋新初夫、菊池

関西大学八十年史

A5判・約六〇〇頁・布ク
ロース装幀・箱入

関西大学創立八十周年記念出版物として刊行しますが、刊行部数が僅少でありますので、御入用の方々は予め頒価金壹千五百円也を添えて御予約下さるようお願いいたします。

関西大学出版部
振替大阪二六七七二番



徹平、金田弥吉、石井康敬、松浦郁也、津田昌利、山本義明、中村康彦、森田善一郎、中村文俊、星加洋、清水卓郎

その他、創立八十周年を記念して、児島惟謙研究家

吉田繁氏(字和島市在住)著『新編児島惟謙』(本学出版部頒布引受)、また、校友春原源太郎氏編纂『明治初期の法学講義—井上操と関西法律学校—』(関大法曹会)、更に同氏著『児島惟謙先生と関西大学』が、それぞれ発刊された。



南米の秘境

アンデスを探る

— 学術調査団派遣 —

学の前に姿を現わさず、自然的、地理的研究に貴重な資料が包蔵されていることへの期待、そしてこの山

群の中のチャチャニ峰附近に未調査のインカ遺跡が多くあるとの推定等がその選定の理由となったものである」(関西大学ペルー・アンデス学術調査隊派遣計画書より)。

調査隊の編成は次の通りである。

本部隊長 文学部教授、文庫 末永 雅雄 (考古学)
副隊長 文学部教授 加藤 一朗 (歴史学)
派遣隊長 文学部教授、医博 杉原 弘人 (医動物学)
副隊長 工学部教授、理博 神月 彰 (地盤学)

創立八十周年記念事業の一環として、南米ペルー・アンデスのワイワシユ山群地域に学術調査隊を派遣し、インカ文明発祥の秘境を探ることになった。

「蓋しペルー・アンデスはインカ文明の発祥地として、かなり紹介されているようにみえるが、実は学術的には未調査地が多く残されているのに鑑み、わが大学は調査目的をペルーに定め、特に、ワイワシユ山群 (Cordillera de Huashan) 地域を選びました。この地域は四、三〇〇mの峰にはばまれ、各国の学術調査隊の充分浸透していないこと、この山群には六、〇〇〇m以上の未登頂の麗峰シウラ・チコとヒリシヤンカ・ノルテ等が残されていること、およびアマゾン河本流の源シウラ湖 (China Koda) が神秘の水をたたえつつ、高峰に囲まれて、未だ全く科

本学がこのような海外学術調査隊を派遣するのは、創立以来の壮挙であって、本学に新たな学問的展開の道を拓くことはもとより、学術的総合調査によっていささかでも学界に貢献しようとするものである。

なお、本壮挙に対して、報道関係から大阪読



隊員 工学部 副手 中野 力

“ 大学院 学生 久野 邦雄 (考古学) 記録

“ 近藤 嘉彦 (法学) マネージャー

“ 池内 嘉宏 (地形学) 記録

“ 米川 利美 (経済学) 会計

“ 日比 進一 (法学) 食糧

“ 長谷川 裕一 (民俗学) 医療

今回の調査隊が行なう調査対象

一 インカ文明の考古学調査

ワイワシユ山群、とくにチャチャニ峰周辺の遺跡踏査に重点をおき、インカ文明の形成とその地理的環境の解明

二 ペルーの医動物学調査

ペルーの風土病であるオロヤ熱、エスブンディア (ウタ) を媒介するチヨウバエ科の採集と分布調査。東南アジア中国南部に分布する東洋瘤腫とエスブンディアとの比較調査

三 地震学調査

アンデス山系の地震測定と、対照点をなすわが国の地震との比較調査

四 土壌学調査

ペルーの土壌試料採集による土壌微生物類の分布調査と各種発酵性カビ類の分離調査

五 社会科学調査

家族関係、村落行政等の法生活の実態調査、住民の法意識、政治意識の調査および法制上の比較調査。経済生活に関する実態調査

六 民俗学調査

各地区における風俗、習慣および信仰の調査。農耕、手工芸その他に関する伝統的な技術の調査

七 未登頂峰の試登

未登頂峰シウラ・チコおよびヒリシヤンカ・ノルテの踏査、ならびにその地形および動植物の分布調査

創立八十周年を記念し、これを機に本学の標榜する「学の実化」の実を挙げ、兼ねて地域社会との連繋によるその社会的知性の向上を図る一端ともなることを期して、創立八十周年記念学術講演会を、十一月十五日（金）午後十二時三十分より、毎日ホールにおいて開催した。

関西大学創立80周年記念
学術講演会
挨拶 森川太郎
財政諸表の社会的意義 植野郁太
集団とリーダーシップ 中谷敬寿
基本的な人権の行使は無制限か
11月5日（金） 毎日ホール
一般市民 聴講自由 入場無料
主催 関西大学
後援 大阪府、大阪市、吹田市、大坂商工会議所、毎日新聞社

× × ×

四月二十九日、調査隊のうち、池内、米川、久野、長谷川、中野の五隊員が勇躍大阪を出発して、五月五日、横浜突堤から川崎汽船「健島丸」に乗船出帆し、また、杉原隊長、近藤、日比の二隊員は、五月二十七日、大阪国際空港から南米ペルーに向けて旅立った。

調査隊その後の主な行動を掲げると次の通り。
（隊員敬称略）

五月三十一日 杉原隊長・日比・近藤リマ着

二十八日 考古学班 クスコからリマへ

開会前より一般市民や学生などが続々参集し、無慮一、〇〇〇名に達する盛況であった。

桜田法学部教授司会の下に、香坂工

創立八十周年記念

学術講演会

学部長が開会

の辞を述べ、

続いて森川学

長が本学八十

年の歴史を顧

み、地域社会

の恩恵に酬ゆ

るため、大学

の責務を果た

すことを誓って

山岳班長谷川・中野ヒリシヤンカへアタック、五、五五〇m（最高到達点）の地点から引き返す

七月十四日 山岳班 CI（五、一〇〇m）建設

十五日 考古学班 サン・マルコス大学の遺跡発掘調査に参加（七月二十四日まで）

十八日 考古学班 パチャカマ遺跡調査

二十日 医動物学班 ヤグアス族の生

挨拶とすれば、満場拍手をもってこれを讃つ。

次いで、講演に移り、

財務諸表の社会的意義

商学部教授 植野 郁太
経済学博士

集団とリーダーシップ

文学部教授 広田 君美
文学博士

基本的人権の行使は無制限か

法学部教授 中谷 敬寿
法学博士

それぞれ、専門の学者として、その深い学識に鑑み、説き来り、

説き去り、真理の扉を開いて、満場の聴衆に多大の感銘を与えた。

最後に、杉原経済学部長の開会の辞をもって、秋宵意義ある講演会の幕を閉じた。

活とマラリア状況調査

二十二日 考古学班 パルチニコ遺跡調査

三十日 医動物学班 サンチアゴ（チリ）へ、山岳班米川・ツラノ、サンタ・ローザ東峰（五、五七八m）に初登頂

八月一日 山岳班 池内・中野、シウラ・グランデにアタック六、一五〇m（最高到達点）

二十六日 杉原隊長 羽田着

× × ×

医動物調査では、ペルーの風土病、特にマラリア熱、オロヤ熱などについて研究、また、考古学調査では、インディオ文化とわが国文化との共通性を発見し、インカ時代の名残りをとどめる唯一の資料といえる祭を調査するほか、現住民の生活状態、特にその物々交換経済を尋ねることに、ペルー国立サンマルコ大学人類学研究室が調査を行なっているウワカ・サンマルコ遺跡の発掘に参加するなど、多大の成果を収めた。一方、ワイワシユ山群試登隊は、例年なら好天の続くべき六、八月の乾期に降雪をみるという悪天候に悩まされながら、氷河と氷壁に挑み六月二十八日、サンタ・ローザ東峰（五、五七八m）の初登頂に成功した。

以上は、調査隊行動のごく一部分であるが、詳細については、本部長末永雅雄教授による「ペルー・アンデス学術調査報告書」を参照されたい。



前夜祭

地からも母校の祭典に参加する校友が多く、開演の六時にはすでに席を埋めつくし、やむなく札止めしなければならぬ大盛況で、入場ねがえない数百の校友に対して何とも申しわけない次第であった。

開幕に先立ち定刻六時、岡野校友会長のあいさつ、森川学長から母校大学の発展によせられた校友の支援に感謝の意をのべ、久井理事長からも「母校発展の礎たる校友の集いに心からなる祝意を表する。創立八十周年を迎えた関西大学は、また明日からあらたなる飛躍に進しょう。今後のご協力を……」とのメッセージがあった。

フェスティバルホールで 大盛況の前夜祭

いよいよ、第一部の開幕、校友北条秀司氏作詩、清水脩氏作曲の『関西大学讃歌』が、朝比奈隆氏指揮の大阪フィルハーモニー管絃楽団、大阪放送合唱団によって披露されるや、会場内は一時静寂、豊かな旋律と荘大な情感は多大の感動を呼び、ついで、学生服も華々しい関西大学応援団プラスバンドのあざやかな演奏は、さすがに全日本一位の賞録充分であった。

つづいて、第二部に移り、「ファンタジ

ー関大八十年」は数十枚のスライドと思いの出のメロデーでつづる関西大学八十年の歩みを、校友柳川清氏のナレーションとトリオこいさんずの歌、小曾根実氏のハモンド、義則忠夫氏とキャスパ・オーケストラの演奏で紹介して魅了し、第三部「大阪ええとこヒットメロデー」は当代一流の人気歌手の競演とあって場内も最高潮に達し、これにこたえて三浦洸一、藤島桓夫、仲曾根実樹、松本錦四郎氏らが熱演、最後に坂田三吉一代記『王将』を校友鉄砲光三郎氏（昭27卒一法）が光子夫人のみごとな太鼓にのせ、舞台一ぱいに繰りひろげる鉄砲節の大熱演に、満場拍手鳴りもやまず、午後九時すぎ三時間にわたる前夜祭は大盛況裡に幕をとじた。

なお、当夜の行事は企画、実施の一切は在阪民放関係の校友の協力によって行われた。

【プロデューサー】吉田三七雄（朝日放送テレビ）鈴木俊郎（読売テレビ）

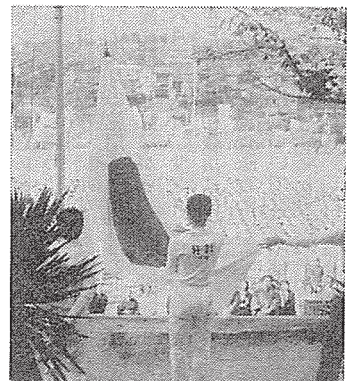
【演出】阿部正義、杉田昭、多田尊夫、松田和夫（以上朝日放送テレビ制作部）尾上つよし（朝日放送事業課）石田昭治（関西テレビ）

松根志忠（読売テレビ演出部）長谷川泰正（大

阪放送制作部）

【美術】柴田千之（毎日放送テレビ美術部）

【照明】前羽俊治、江端明弘（以上朝日放送テレビ照明課）



一高、一中、幼稚園も 慶祝の各種行事

附設の第一高等学校、第一中学校および幼稚園でも、関西大学創立八十周年を記念して、大学の盛大な記念行事に協賛参加することにし、それぞれの特色を発揮し、よく附設学校たるの実を挙げた。

まず、大学の栄ある記念式典には生徒会の代表者を参列させて慶祝の意を表し、殊に保母につきそわれた園児代表の可憐な姿はひととき衆目を集め、一大綜合学園なるかなの感を深からしめた。

一高・一中共催で、十月十日（日）に体育祭を挙行、全員の合同体操に始まり各種競技に、発渾たる若人の意気極めて軒昂、特に中・高選抜の合同競技など両校間の友好を目のあたりにして、まことに微笑ましい風情であった。

さらに、十月十七日（日）の文化祭は大規模で盛大を極め、会場も九つを数え、講堂、校舎、グラウンドと多彩な催物に溢れ、参観の父兄を含め全校挙げて楽しく一日を過ごした。

大学発展を祝し、更だに誓う

関西大学校友会では母校の創立八十周年記念を慶祝する諸行事を計画し、まずその手始めに、校友北条秀司氏作『司法権』（推薦校友長巳柳太郎、島田正吾主演）を上演する新国劇の恒例新春公演（大阪サンケイホール）に、「祝関西大学創立80周年」を謳って、協賛した。校友はもちろん、一般市民に多大の感銘を与え、とくに作者北条秀司氏が母校大学に対し、「八十周年記念として戯曲『司法権』をささやかな花束として贈る」との序幕のタイトルは心ゆかしい作者の真情を披瀝して、心うたれるものがあつた。

次いで、十一月二日（火）午後六時から大阪中之島の大阪フェスティバル・ホールで校友会主催、大学協賛の前夜祭を華々しく開催した。三千名を収容する大会場も、五時三十分の開場時刻には長蛇の列で整理係は汗だく、東京その他遠隔

昭和四十年年度の校友総会は十一月四日（木）午後二時半から、竣工なったばかりの関西大学会館四階大集会室で三百余名が出席して行なわれた。

あたかも午前中は創立八十周年の記念式典が大体育館で一千余名の来賓、教職員、学生代表参加の下に盛大に挙行され、学園は祝賀ムードにつつまれた中で、前々日の二日に落成式を行なったばかりの会館で開く校友総会は、こけら落

しの記念すべき行事であった。

集るもの、東京、金沢をはじめ名古屋、姫路、岡山、広島、福岡、香川、徳島、高知など遠隔地の校友も多く、岡野会長、森川学長から、母校創立八十周年記念事業に寄せられた校友の皆さんのご協力に対して深甚の感謝の意を表し、また久井理事長は「大学はかくも発展したことは先人先輩の粒々辛苦の結晶である。われわれ校友多年の念願の会館が、かくも立派に完成したことは校友の皆さんの母校愛によってできたものであるが、関西大学の理事者は、居心地のよい会館におさま

新築落成の関大会館で

こけら落しの校友総会

ておれる現状ではない。私はこんごと、自ら大学関係者の先頭に立って、汗を流して学園の将来のため努力するつもりである」と力強く語り、校友の協力を要請した。

総会を終わって、会館グランドにおいて祝賀パーティを開き、ビールの杯を挙げて今日の佳き日を寿ぎ、関西大学の万歳を三唱して、母校の発展を祈った。

（前夜祭・校友総会記事）
（神屋敷校友会事務局長記）

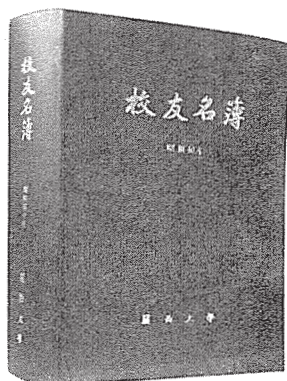
新「校友名簿」

完成刊行

本学創立八十周年を記念して、完璧な「校友名簿」を刊行すべく、昭和三十九年十二月十九日名簿委員会を設け、従来の名簿は住所判明者のみであったが、今回は全校友を網羅することにし、校友課において鋭意作業をすすめ、八十年間にわたる卒業生の基本カードを調整するかわら、あらゆる方法にて校友の動静把握に努めた。漸く資料を整えて印刷に廻し、校正を重ねること四校、その間、校友・出版関係職員は夏季休暇中も終日出動して、萬遺憾なきを期すなど、関係者の協力の結果、十一月三日の記念式典前日ようやく完成した。

ここに、創立以来はじめて、全校友九万一千余名を登載した完璧な「校友名簿」が出来上がった。

新名簿を繰りみて、久井理事長が序文に「この校友名簿は、関西大学のいわば事業報告書のようなもので、その一頁一頁に、また、その一人一人に、八十年



に亘る母校の教育成果が刻印されているようにおもわれ、うたた感慨無量なのは、唯に私一人ではありません」と謳うのも、宜なるかなの感深く、八十年の記念にふさわしいものといえよう。

× × ×

名簿委員会

委員長 久井 忠雄
（委員） 大江久五郎 大島武夫 神屋敷民蔵

寒川喜一 田中一郎 羽野堅二 畑下辰典 林信夫 三島律夫 山影耕作

担当及び協力課・職員

（担当） 名簿事務局 大江久五郎

（事務局長） 兼校友課

長事務取

坂

安井章吾

（校友課嘱託）

神屋敷民蔵

（校友会事務局長）

前田初枝（校友課員）

校友課 向高憲昭 殿内佳子

校友會 洲沢孝子

出版課 羽野堅二 井内雄二

体裁

B5判 薄厚表紙布クロス装綴
真鍮箔 ビニールカバー付

組版及び用紙

横組六ボ二段組 上質紙使用

登載人員

本文 九一、六八八名
索引 八三、三八四名

頁数

本文 七一八頁 広告 八〇頁
索引 三二〇頁

発行部数

四、〇〇〇部

創立八十周年を記念して、学部一部では、「関西大学創立八十周年記念祭実行委員会」（委員長石村憲二君）を設けて「八十年の歴史を持つ関西大学を再認識し、栄えある伝統を守りつつ、経験と礎石として、現状に望み、明日への躍進を期して、厳肅かつ盛大裡に挙行」（同委員会実行計画書より）すべく、「脱却から躍進へ／人叫と狼笑の谷間に生きる我等」をスローガンとして、次の事業を行なうことになった。

第五回千里祭

恒例の第五回千里祭は、時恰も八十年記念式典にあたるので、例年になく、多種多様なスケジュールで盛大に、十月三十日から十一月三日まで、五日間開催された。

まず、誠之館特別講堂では、連日に亘り校友北村徳太郎、左藤義詮、大宅壮一の各名士の講演やグリー、軽音楽、民族舞踊、吟詩剣舞、能、演劇、映画、落語、奇術等の各種催物が行なわれ、法文学舎と大学院ホールでは、十月三十一、十一月二、三日に亘り、シンポジウム、講演会が開かれ、さらに、法文学舎および経商学舎では文化会各部が競ってそれぞれ特色ある展示会を開き、一大文化芸術絵巻を繰りひろげたかの観を呈し、また、工学部学舎では、各学科や工学研究会が研究成果や最新の機械を展示して、現代科学文明を誇示すれば、一般観覧者にさすがに綜合大学たるの感を抱かせた。

千里祭最終の十一月三日には、第一グラウンドでサッカーその他の公開演技、応援団、学研文化会クラブの行進に、体育会のスポーツパレードと続き、ファイヤーフェスティバルに移る頃にははや夕闇せまり、壮麗な花火の後、キャンドルサードの火が千里丘陵の暗黒の中に明々と輝き、五日間に亘った若人たちの情熱の名残りを留めつつ、第五回千里祭の幕を閉じた。

パープル・ブルー・フェスティバル

十月二十三日、午後五時から大阪プールにおいて、ミュージック・フェスティバル「パープル・ブルー・フェスティバル（紫紺の祭典）」を催し、森川学長、石

村実行委員長の挨拶の後、大阪府民とともに軽快なリズムに乗せて、爽やかな秋の夜長を楽しんだ。

会場は色とりどりのライトがプールの水面に映え、そよ吹く風に波立ち、七色の虹のように美しい。舞台では、学業の余暇に練習を重ね、腕を磨いた若人の情熱がメロディーとなってスタンドに流れ、満場の聴衆を魅了し、午後九時すぎ盛大裡に閉会した。

合同展示会

十月十八日から同二十一日まで、サンケイ・サロンで合同展示会が開かれた。参加団体とその展示作品は次の通りである。

広告研究会（広告八十年史、及び環境浄化甲子園キャンペーン）
ラテン・アメ（移住八十年史及びブラジルの新風情等の展示）
リカ研究部（首都ラテン・アメリカの自然風景等の展示）
国文学研究部（近畿一円の拓本展示）
書道部（書画の伝統芸術を追求し現代性をあむ作品展示）
写真部（沖縄遠征の写真展）
美術部（オブジェ）

なお、BGMはレコード部、アトラクションは奇術部がそれぞれ担当し、連日多数の一般客に大好評を博した。

講演と映画の会

十月十五、二十一、二十二日に亘り、「講演と映画の会」が誠之館特別講堂において開かれ、変動する時局問題について、聴講学生に多大の感銘を与えた。

「裁判制度に於ける基本的権問題」

戒能通孝氏

「日韓条約の本質は何か」

藤島宇内氏

「日韓条約と韓国国民」

亀山旭氏

なお、映画は、ヘミングウェイの「誰が為に鐘は鳴る」が上映された。

関・法スポーツ祭典

体育会では、八十周年を記念して、日頃相互連携や定期試合を通じて親密な友好関係のある法政大学体育会と総合親善試合を行なうこととなり、十月三十、三十一の両日に亘って、千里山第一・第二グラウンド、体育館、特設リンク、道場、馬場、プール等で屋外および屋内スポーツを競い合い、また、陸上部は長居競技場、航空部は岡山飛行場、ヨット部は西宮ヨットハーバー等各種競技に適した場所を選んで、それぞれ極めて友好裡に親善試合の実を挙げ、三十一日夕闇迫る頃第一グラウンドにおいて成績発表、講評、続いて、両大学役員の挨拶のあった後、両大学の校旗を降納し、万雷の拍手裡にめでたく親善試合を閉会、この華やかな祭典の幕を閉じた。

なお、二十七種目に亘る稀にみる盛大な競技大会であった。

五党討論会

本学の建学精神といわれる「正義を権力より守れ」を学び、現在社会正義のため活躍している本学出身代議士押谷富三（自由民主党、衆、大五法）、山本伊三郎（日本社会党、参、昭二五英）、瓜生清（民主社会党、参、昭十七應）、近江己記夫（公明党、市議、昭三十七登）、灰井正二（日本共産党、元市議、昭十六登）の諸氏を招いて、政界への進出動機から現在社会情勢の問題点を中心に各政党の立場を話し、学生の政治意識の向上に資するところが多かった。



一 全国一周サイクリング

十月九日—十月二十三日

一 記念論文集発行

十月三十日発行予定

一 五党討論会

於法文講堂
十月三十一日午後一時より

一 関法総合定期戦

於第一グラウンド
十月三十日—十月三十一日

一 講演と映画の会

於誠之館特別講堂
十月十五日、二十一、二日

一 合同展示会

於サンケイ・サロン
十月十八日—十月二十二日

一 紫紺の祭典

於大阪プール
十月二十三日 午後五時より

一 第五回千里祭

於千里山学舎
十月三十日—十一月三日

各種行事催物

学部二部では、学友会が記念式典を祝賀すべく、「八十年という関西大学の一里塚に際して……『歴史の誇り、未来の創造』を統一テーマとして」(委員長小島秀明君)「八十周年記念学園祭」を計画、記念学術講演会、記念祭、体育大会、研究発表(展示会を含む)、フィナーレを催した。

記念学術講演会

十二月四日、天六学舎三十六教室で、福島四郎(法)、寛田知義(文)、中川庸太郎(経)、高尾忠男(商)の四教授がそれぞれの専門分野の学術講演を行ない、聴講学生に多大の感銘を与えた。

記念祭

十二月五日、大手前会館で開催。学歌斉唱の後、森川学長、久井理事長、小島委員長の挨拶の後、吟詠、邦楽、演劇、軽音楽、民謡等多彩なプログラムに各部の華を咲かせ、最後に映画「シャレード」をもって閉会した。

体育大会

十二月五日、大阪市立阿倍野体育館で午前九時三十分、体育会旗掲揚、学歌斉唱の後、学長、体育会本部長の挨拶の後、大阪電気通信大学(フュージョン)、大

阪工業大学(剣道)、大阪市立大学(空手)、近畿大学(柔道)、大阪経済大学(拳法)等を招聘して、友好裡に親善試合を行ない、最後に応援団が勇ましく応援歌を合唱して幕を閉じた。

研究発表(展示会を含む)

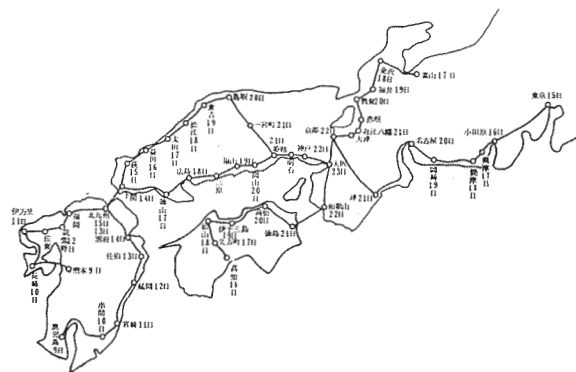
写真、絵画両部は十二月五日、大手前会館で秀れた力作を展示し、また、社研、中国研、仏文研、朝鮮文研、史学研、女子同好会、政経研、英語研、山岳、水泳各部は、二月六、七両日、天六学舎教室、有鄰館会議室等でそれぞれ特色ある成果を公開し、また、法研では模擬裁判を、弁論部は記念討論会および弁論大会を、自動車、山岳、中国研では映写を行ない、日頃の研鑽を誇示し、それぞれ特色を競い合った。

フィナーレ

十二月八日午後六時三十分より天六学舎校庭において、二部学園祭の柱尾を飾るフィナーレが催され、軽音楽に続いて応援団プラスバンド演奏裡に乱舞をもってクライマックスに達し、表彰式や記念植樹があった後、午後八時、再び最後のファイアーストームに若人の情熱を盛りあげて、五日間にわたる記念祭の幕を閉じた。

葦の葉文化祭

九月五日、午前九時より、御堂会館で恒例の「葦の葉文化祭」を記念行事の一



記念論文集の刊行

八十年の永きに亘って研鑽を積まれた本学の学問研究を、学生の側から誇示すべく記念論文集を刊行することになり、一般学生に公募し、寄せられた論文を十名の教授達による選考審査を受けて、法学部五名、文学部七名、経済学部五名、商学部一名、計十八名の論文を集録して、A5判、一四八頁の見事な学術論文集が出来上った。

論文はそれぞれの学部の特色を出し、

環として開催、学歌斉唱の後、混声合唱民謡、詩吟、邦楽、軽音楽、落語、演劇等多芸にわたり、日夜研究と練磨を重ね

高度な学問的水準を示している。

全国一周サイクリング

全国各地にいる校友の協力を得て、記念式典をより盛大に行なうべく、兼ねて全国各地への本学のPRのため、実行委員会が特別事業計画したもので、学友の参加者を募り、各コースを各五人のパーティが完走するものである。

北は北海道から南は鹿児島まで走るのが本来であるが、今回は、東は東京および富山までとし、コースおよび所要日数は次の通りである。

東海道 九日間
北陸道 六日間
四国道 八日間
九州、山陽道 十三日間

十月九日、秋晴れの山陽道に向ったのを皮切りに各コースそれぞれ出発し、行く先々の校友支部よりメッセージを受け十月二十三日、パール・ブルー・フェスティバルの行なわれている大阪プールに、多大の成果を収めて着々帰還した

グリークラブ沖繩訪問親善演奏

記念行事の一環として、七月五日から同十五日の間、学友会・文化会・新聞・放送・写真・合唱各部約七十名が沖繩那覇、名護、石川、ゴザの各都市を訪問、特に身体不自由児施設、また都心から離れた農村地域において演奏会を行ない、音楽を通じて日沖文化交流に多大の成果を収めた。

た成果を披露、終って、新調の文化会会旗入式を行ない、映画観賞の後閉会した。

關西大學會館

落成式

創立八十周年記念事業の一環として去る四十年三月より大学外苑内高台、秀麗の地に建築中であつた關西大学會館の竣工落成式が、創立八十周年記念式典の前々日晴天の十一月二日挙行された。

なお、落成式に先だち、午前九時三十分より關西大学會館玄關階段横に設けられた定礎格納場所にて定礎式を挙行、久井理事長はじめ各役員、設計者村野・森建築事務所村野藤吾氏（森一氏代理出席）、小河吉之助氏、施工者森組森幸治氏列席し、吹田垂水神社神官の祭事に続いて玉串の奉奠があつた後、久井理事長の手で、定礎銘板および定礎格納品が定礎箱に納められ、めでたく式を終了した。

引続いて、落成式は、午前十時より關西大学會館四階大集会室において、来賓五百余名を迎えて、盛大に挙行された。

開式と共に吹田垂水神社神官の厳かな祭事に続いて、祝詞奏上、次いで、久井理事長はじめ大学関係者、設計者、施工者の代表者がそれぞれ玉串を奉奠し、神官の祭事あつて滞りなく落成式の神事を終了した。

閉式後同會館四階大集会室において直会に移り、学内外関係者一同その竣工を慶びあつた。

なお、關西大学會館には法人、大学、校友会各本部があり、各方面から囑望されていた大学の一大センターである。



玄関



三階ラウンジ

（14頁下段よりつづく 水谷講師懐旧談）

設等の一切を包含するものを意味したので斯くいうのでありますが）の完備を遂げた、あるいは、遂げつつある本学は、いよいよここに、全面的に内容の充実に進進する立場に直面しているというべきでしょう。しかして「内容の充実」とは、崇高な学部としての地位の確立とともに、「よい教育をする」ということに尽きましよう。

内容の完備を達成するために要する努力のなみ大抵のものでない大事業であるのはいうまでもないことでありますが、これは、比較的短期間に実現することの出来る性質のものであるといえましよう。事実、本学は、当局の非常な努力によつて、すでに、そのあらしが完成したのであります。

しかし、「内容の充実」は決して一朝一夕に達成出来るものではありません。これから、何年かかるか、おそらく大学の存在を通じて、永遠にわたるものであり、完成ということはないものであるかも知れません。そして、それは、われわれが、今日より明日、明日より明後日と、不斷に改善と進展を期しなければならぬことであり、一刻の遅延、一日の猶豫を許されぬものと思うのであります。そして、それはまた、いうまでもなく、全学を挙げての渾心の精進と努力があつて初めてその実現が見られるものであります。

本学八十年の歴史、これは永い歲月にわたるように見えても、大学永遠の生命から見れば、あるいは、東の間のことに過ぎないものとも言えましよう。そして、後世の人々は、これを、本学揺籃の時代と見るかも知れませ

ん。しかし、われわれにとっては、この八十年は決して短かいものではなく確かに、一つの歴史を表現するものと思ひ得るでありましよう。ただ、われわれは、この歴史を誇り、あるいは、これに酔うのみでは、その意義の大半を失うことであり、いわゆる「温古知新」的の觀念を以つて、将来の計を立てるところに、本日の式典の本質的な意義があると信ずるのであります。

私は現在本学の講師を勤めておりますが、他に本務を持たない専任の講師でありまして、これから、追々、助教授になり、教授になる立場のものであります。まあこれは冗談ですが、ただ本学の古い教員であることは事実であります。私が本学教授に就任したのは大正十一年で、本学が當時の大学令による本格的大学に昇格した時であります。爾來四十二年、私は、その前半は教授として、後半は講師として引續いて教鞭をとり今日に及んでおります。私としては、実に、自分の生涯の大半を本学で過ごしたわけでありま

す。岩崎教授なき今日、本学では、私が最も古いものでありましよう。この点においては、やや、稀少価値が出て来たのではないかと自負している次第であります。

私事にわたりまして恐縮ですが、このような私は、本学の発展を祈る点においては、決して、人後に落ちるものでなく、今後とも、本学のため微力を尽すつもりであることを誓ひ、本学が一日早く「A large university」から「A great university」になることを念願して私の挨拶の言葉といたします。

式典準備の経過

創立八十周年を迎えるにあたり、記念式典など多彩な行事を行なうべく、昨昭和三十九年七月三十日に第一回の記念事業計画委員会を開き、前後四回に亘り慎重に計画を立案して、ほぼ成案を得たので、昭和四十年五月十二日記念事業実行委員会を委嘱し、業務を分担して、万般の準備を着々と進め、ために、過日滞りなくこの栄ある記念行事を恙なく終了することが出来ました。茲にそれぞれの掌にあたられた方々の芳名を録し、業績を讃えて、その労を憐れたいとおもいます。

学校法人 關西大學

記念事業計画委員を左の諸氏（敬称略）
評議員会より 二名 議長 長（中石 清一）
副議長 長（戸根 泰雄）
教育職員より 二名 教育学部長（壺井 義正）
学生部長（和田 豊二）
附設学校より 一名 校長（三島 律夫）
校友会より 二名 会長（岡野 衛士）
総務部長（大島 武夫）
教育後援会より 一名 会長（藤田友次郎）
事務職員より 九名 総務局長（大江久五郎）

経理局長（水野 三郎）
学務局次長（山影 耕作）
募金事務局長（池田信之助）
総務課長（羽野 堅二）
企画調査課長（田中 一郎）
経理課長（北岡 栄一）
庶務課長（鈴木 竜男）
学生課長（里見 復二）

に委嘱し、理事会より、久井理事長、中谷学長が加わり、理事長が委員長、学長が副委員長となつて、昭和三十九年七月三十日に第一回関西大学八十周年記念事業計画委員会を開催、爾後、明けて昭和四十年一月二十五日、二月十五日、三月十一日の三回に亘り、慎重に検討審議した結果、次の事業計画を立案した。

一 式典

記念式典 昭和四十年十一月四日 創立記念日に挙行

物故学員慰霊祭 式典当日挙行

校友大会 十一月三日開催

二 記念発刊物

十年史 「関西大学七十年史」以後の十年史を編纂刊行

記念論文集 各学部ごとに刊行

三 讃歌の制定

（作詞）北条 秀司氏に依頼
（作曲）清水 脩氏に依頼

四 新学生歌の募集

詩形自由、五章節以内、学内外関係者に公募
五 関西大学学歌オーディション

学歌には従来完全なオーケストレーションがなされていないので、この際に作曲依頼

六 披露演奏

讃歌、新学生歌及び学歌を式典で披露演奏する

七 創立者群像レリーフの製作

創立者群

a 創立発起人と認められる人々

井上操 小倉久 堀田正忠

b 創立当初の教師であつた人々

手塚太郎 鶴見守義 志方敏

野村鈴吉

c 創立発起人の偉業を側面的に援助したと推定される人々

児島惟謙

d 創立発起人を援助し、且つそれに参画したと推定される人々

大島貞敏 土居通夫

e 創立当初学校の業務に与つた人々

吉田一士 有田徳一

f 以上十二名の群像をレリーフとする。縦九〇

横、横一六〇釐、なお本文は学内に依頼

山岡順太郎氏胸像復元

旧本館前にあつた胸像の復元

九 学術講演会の開催

学術調査団の派遣

南米ペルー・アンデス山脈・インカ帝国の総合

学術調査

二 学生の記念事業

一部、二部とも校友会で企画

三 広報計画

新聞報道、ラジオ・テレビ放送、記念レコード

および映画の製作、ポスターその他によるPR

成案を得た事業計画をもつて、愈々実行委員会に移すこととなり、昭和四十年

五月十二日記念事業実行委員会並びに業務分担を左の諸氏に委嘱した。

委員 久井 忠雄（理事長）
中谷 敬寿（学長）
榎本 信雄（評議員会議長）
岡野 衛士（校友会長）
池田信之助（募金事務局長）
板橋 菊松（顧問）
今井 康兼（評議員会副議長）
植田 重正（理事）
上道 直夫（理事）
梅原貞治郎（監事）
大江久五郎（総務局長）
大島 武夫（員長）
小野 勇（教養部長）
金戸 嘉七（就職部長）
寒川 喜一（校友会副会長）
菊久池 博（校友会副会長）
北岡 栄一（経理課長）
香坂要三郎（工学部長）
小寺 寛（監事）
小林 巖（評議員会人事委員長）
桜田 蒼（学生部長）
里見 復二（学生課長）
菅原 菅雄（大学院部長）
杉原 四郎（経済学部部長）
鈴木 竜男（庶務課長）
高尾 忠男（商学部部長）
田中 一郎（企画調査課長）
田中治良太夫（第二学生課長）
鶴嶋 雪嶺（学生部長代理）
壺井 義正（教務部長）
寺西 武（校友会代議員会副議長）
寛田 知義（幼稚園長）
戸根 泰雄（評議員会財政委員長）
中石 清一（理事）

- 西村治三郎(理事)
西本 寛一(理事)
羽野 堅二(総務課長)
福島 四郎(法学部長)
藤田友次郎(教育後援会長)
堀 正人(図書館長)
前川信之助(評議員会学事委員長)
松原 藤由(理事)
三島 律夫(高・中学校長)
水野 三郎(経理局長)
山影 耕作(学務局長)
山本 順應(教育後援会幹事長)
横田 健一(文学部長)
- 委員業務分担(○印は主任をあらわす)
総務係
○西村治三郎 大江久五郎 田中 一郎
壺井 義正 羽野 堅二 山影 耕作
經理係
○小寺 寛 北岡 栄一 水野 三郎
式典係
○松原 藤由 梅原貞治郎 小林 巖
鈴木 竜男 高尾 忠男 羽野 堅二
レリーフ係
○櫻本 信雄 今井 康兼 香坂要三郎
田中 一郎 壺井 義正 前川信之助
讃歌(作詞・作曲)係
○上道 直夫 小野 勇 堀 正人
三島 律夫
広報係
○中石 清一 板橋 菊松 大島 武夫
金戸 嘉七 田中 一郎 藤田友次郎
学生係
○板田 誉 里見 復二 田中治良太夫
鶴嶋 雪嶺
校友係
- 岡野 衛士 池田信之助 大島 武夫
木藤 安之 神屋敦民蔵 寒川 喜一
菊久池 博 津田 弘 寺西 武
林 信夫 松村 睦鴻
年史編さん委員会
○中谷 敬寿 植野 郁太 上道 直夫
太田 雅一 壺井 義正 寛田 知義
西本 寛一 羽野 堅二 福島 四郎
三島 律夫 矢口孝次郎 横田 健一
(幹事) 山影耕作 神屋敦民蔵
学生歌選者
○植田 重正 鐫方 貞亮 大岩 正芳
亀井 利明 栗駒 正和 谷沢 永一
実行委員会では事業計画を引継ぎ、日時
も切迫するので、各業務分担委員毎に準
備を進めることとなり、
六月 七日 讃歌係会合 (学生歌歌詞選歌の
選定)
六月 十七日 レリーフ係会合 (制作型式、予
算、設置場所
等審議)
七月 二十日 レリーフ係会合
九月 三日 同 右
九月 九日 讃歌係会合
九月 二十日 第一回実行委員会
(委員四十四名出席 久井委員長挨拶
記念事業計画実施状況了承。なお、動
機功労者表彰、慰霊祭祭神等につき審
議)
十月 八日 学術講演係会合
十月 十三日 広報係会合
十月 二十五日 式典係会合
十月 二十八日 学術講演係会合
十月 二十九日 総務、経理両係会合
(記念事業実施状況全般および式典実
施計画につき総務課長より説明、これ
を了承。なお、服装は理事長・学長は

十一月二十七日 第二回実行委員会

礼装、一般は平服と決定)
(久井委員長より「盛大な記念式典を
挙行し、且つ記念事業の殆んどを終了
し得たのは、委員各位の御指導、御協
力によるものと深く感謝し、本日にこ
に実行委員会を解散します」と挨拶。
なお、年史編纂委員会は、本実行委員
会から切り放し、今後学長に委嘱して
完了を期待する)

なお、五月成立した実行委員会委員の
うち、役職更迭その他の事情により交替
された方々があるので、昭和四十年十月
三十日現在における実行委員会の名簿を
最後に載録する。(敬称略、長以外五十音順)

- 委員長 久井 忠雄(理事長)
副委員長 森川 太郎(学長)
委員 櫻本 信雄(評議員会議長)
岡野 衛士(校友会会長)
足立 超(教育後援会副会長)
飯田 正一(学生部長)
鐫方 貞亮(就職部長)
池田信之助(募金事務局長)
板橋 菊松(東京渉外本部長)
今井 康兼(常務理事)
植田 重正(理事)
上道 直夫(理事)
梅原貞治郎(監事)
大江久五郎(総務局長)
大島 武夫(評議員会給与厚生委
員長)
小野 勇(教養部長)
寒川 喜一(校友会副会長)
菊久池 博(校友会副会長)
北岡 栄一(経理課長)
香坂要三郎(工学部長)
小島 秀明(二部学生会委員長)

- 小寺 寛(監事)
小林 巖(評議員会人事委員長)
里見 復二(学生課長)
菅原 菅雄(大学院部長)
杉原 四郎(経済学部長)
鈴木 竜男(庶務課長)
高尾 忠男(商学部長)
田中 一郎(企画調査課長)
田中治良太夫(第二学生課長)
鶴嶋 雪嶺(学生部長代理)
寺西 武(校友会代議員会副議
長)
寛田 知義(幼稚園長)
戸根 泰雄(監事)
中石 清一(理事)
西村治三郎(理事)
西本 寛一(理事)
羽野 堅二(総務課長)
福島 四郎(法学部長)
藤田友次郎(教育後援会長)
堀 正人(図書館長)
前川信之助(評議員会学事委員長)
松原 藤由(理事)
三島 律夫(高・中学校長)
水野 三郎(経理局長)
村上 精三(評議員会副議長)
森 正治(評議員会財政委員長)
山影 耕作(学務局長)
山本 順應(教育後援会幹事長)
横田 健一(文学部長)

また、十一月四日式典当日の諸行事が
滞りなく行なわれるため、事務職員に別
表(次頁参照)のごとき業務分担を割り当
て、万遺憾なきを期し、ために、極めて
円滑に運ばれ、諸行事を無事終了するこ
とができた。

創立八十周年記念式典業務分担表（名省略、敬称略）
◎総指揮者 大江、水野、山影、池田、山本（順）

班	保	責任者	補助者	総務		記録		受付、接待		設備		慰霊祭		祝宴		式典		救護		学		電話交換手												
				表電・祝電	秘書・金書	録影・写真	録音・録画	職業後援会	教育委員会	携帶品	自動車整理	休憩室	照明・マイク	招明・マイク	進配	進配	進配	進配	進配	進配	進配		進配	進配										
井内、松本(敏)、小西(孝)、江原	吉原、中川、磯田、清水(省)、池内、大津	松永(季)、秋田、井関、石川、岡田、玉川、徳田、中原(親)、花田、奥田、関	藤壘、北村、吉村(利)	上田、石原、日下、鈴木(孝)	大西、東(元)、早川	齊藤(博)、北田、中原(淑)、田代、田熊、大國(受付、接待を含む)	上ノ山、伊勢、原納	吉岡、明石、吉村(香)、真鍋	秋山、小谷(久)、万野、洲沢、松本(秀)	朝重、杉田、大沢(穂)、森(三)、林(道)	横山、富田、川合、板垣、向高	霜上、丸山(和)、山本(倫)、小谷(妙)、田中(豊)	小幡(芳田)、下川、天野(敏)、福西、松田、山本(泰)	小笠、安原、愛智、西野、印藤	飯尾、湧川、浅沼、峰垣、中谷、中路、野安、久米、泉	安宅、原田(徳)、津野	赤松、齊藤(正)、中山(忠)、大石、大森、池尻、柴田、河江、水田	坂下(有馬)、勝、白木、松本(昌)、岡本、陽、谷本、松永(悠)	美崎、周防、田中(忠)、松島、森(悠)	水口、大原、河端、武富	阪本(寛)、武藤	浜瀬、松本(有)	木下(正)、竹崎、藤井(収)、井上(順)、丸山(良)、石田(三)、井上(健)、森(三)、市山、谷	平置(力)、若林(志)、村野、山本(福)、河村、川崎、坂口、中村、武田、白石、植田(三)	郡司、山口(敏)、浅野、宇真、角田、木下(孝)	高瀬、小谷(信)、田淵、高浜、岡部、工藤、吉村(安)、渡辺、吉川(直)、平松、芦谷	田村、山田(輝)	田尾、中浜	向井、片倉、山本(敏)、井上(澄)	大和、原田(正)、達摩、三浦(洋)、稲岡、遠藤、荒木、坂本(芳)、常行、高橋(綱)、中井	宇田、三島、山口(辰)、石田(健)、毛尾、水野(寛)、木下(俊)、近藤、永橋、藤野、阿藤	上山、村山、岩村、山脇、川口、平良、山田(寛)、津田	石田(幸)、川上、豊田	河野、宮井、小幡(利)、四元

記念植樹



創立八十周年を記念して、教育後援会から、関西大学会館前庭に唐棕櫚三十本の植込が寄贈されることになり、十一月二日、午前九時より、植樹記念碑の除幕、および大学への贈呈式が行なわれた。

×

×

×

和四十一年十一月三十日發行 (非売品)
關西大學學報 第三四八號

(創立八十周年記念特集号)

大阪府吹田市山手町三丁目三番三五号
編集兼 発行人 關西大學出版部

羽野堅二

大阪市北区川崎町三八

ナニワ印刷株式会社 印刷所

電話(三五一)七二七一番

大阪府吹田市山手町三丁目三番三五号

發行所 關西大學出版部

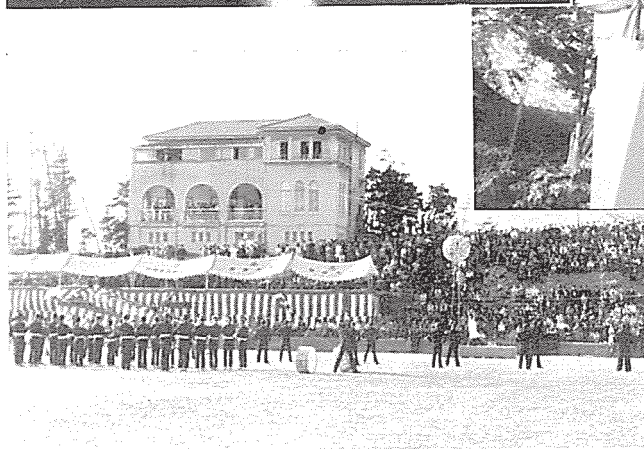
三、二、一、〇

辰替 大坂二六七七二番

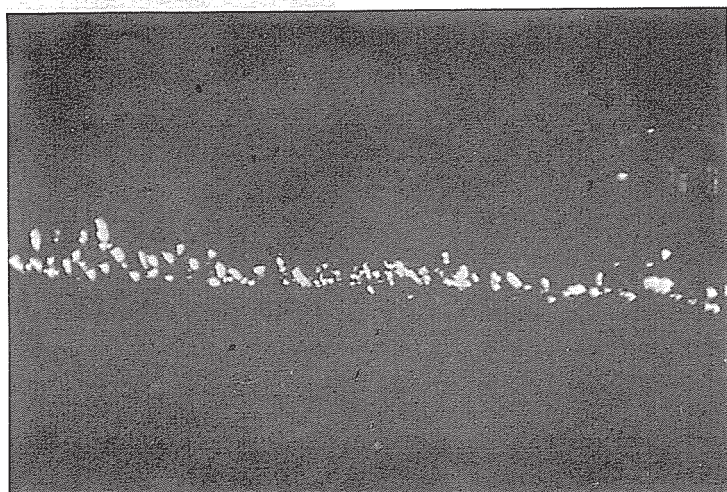
[illegible]



学術講演会



千里祭風景



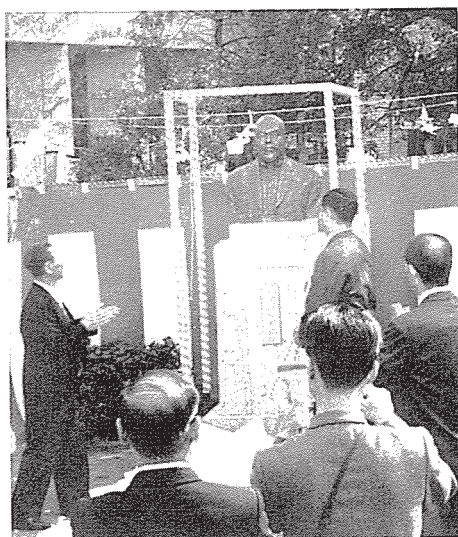
キャンドル・サービス



来賓を迎える受付

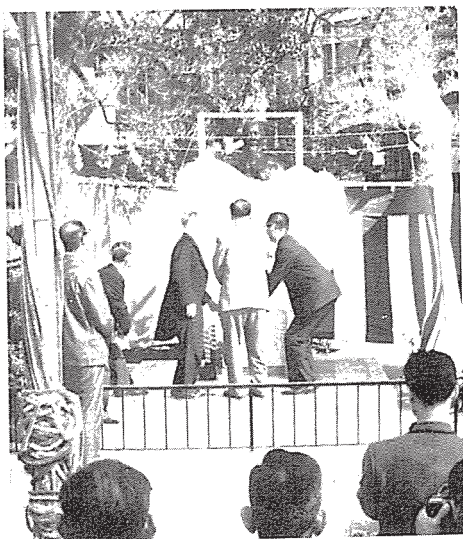


祝
宴



山岡先生胸像除幕式

児島先生胸像除幕式

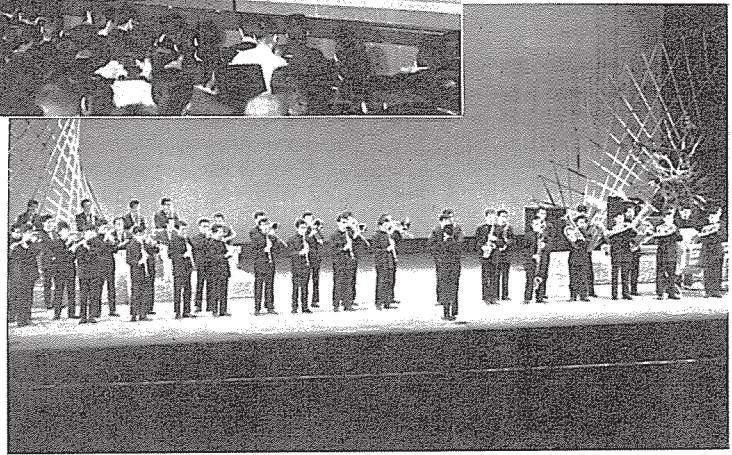




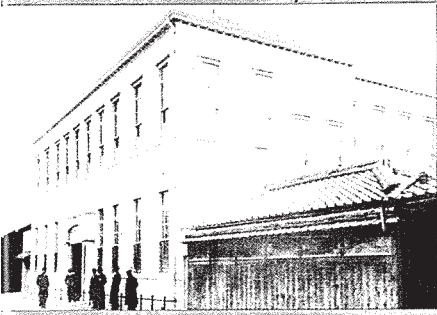
挨拶する岡野校友会長



前夜祭風景



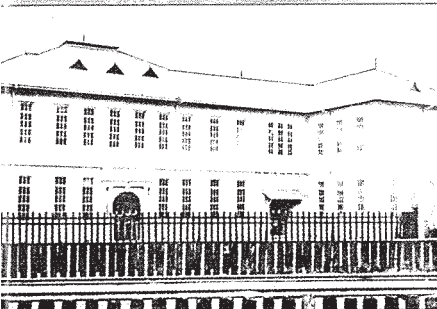
「創立者の像」(レリーフ) 除幕式



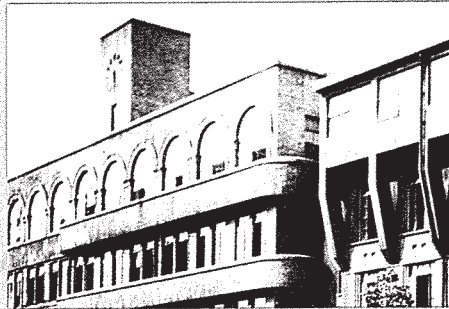
江戸堀学園（三三年頃）



関西法律学校正門
（河内町興正寺、1890年頃）



福島学園（1906年頃）



天六学園



千里山学園
（旧法文学舎、大学院学舎）



千里山学園全景